

Ⅱ 職員の健康管理

Ⅱ 職員の健康管理

一般定期健康診断については、山口大学職員労働安全衛生規則第26条に基づいて年1回の実施している。また、労働安全衛生規則第13条あるいは労働安全衛生法施行令第22条に掲げる業務に常時従事している職員(特定業務あるいは特殊業務従事者)に対しては、6ヵ月(半年)ごとに健康診断を実施している。

1. 定期健康診断

1) 対象と概要

職員の健康診断は、山口市(吉田地区<附属小・中学校、幼稚園、特別支援学校を含む>)、宇部市(常盤地区・小串地区)、光市(光地区<附属小・中学校>)の大きく4地区に分けて実施している。

本学で実施している基本健診の検査項目と各項目の対象者を表1に示した。○印は全員が行う項目(必須項目)、△印は必須項目ではないが検査を希望する者あるいは医師が必要と認めた者に行う項目を表す。

職員の定期健康診断は、安全衛生対策室が実施主体であるが、実施計画の立案や外部検査機関との調整は保健管理センターが行っている。大まかな役割分担としては、実施通知や受診対象者の把握、健康診断問診票の事前配付及び結果報告書配付などの事務的な作業は安全衛生対策室が担当し、健康診断実施に関する実働的な作業(検査物品の調達・準備や健診会場の設営、健康診断結果の整理・判定作業、結果通知報告書作成など)は、保健管理センターが担当している。

表1 各検査の対象者および検査項目

検査項目	対象者区分				備考	
	34才以下	35才	36~39才	40才以上		
基本健診	身体計測(BMI)	○	○	○	○	体脂肪率
	血圧検査	○	○	○	○	
	尿検査	○	○	○	○	蛋白、糖、潜血
	胸部X線検査	○	○	○	○	間接撮影
	聴力検査	○	○	○	○	
	視力検査	○	○	○	○	
	腹囲計測	—	○	—	○	BMI20未満の人は省略可
	心電図検査	—	○	—	○	
	血液検査	△	○	△	○	末梢血(WBC、RBC、Hb、Ht) 肝機能(AST、ALT、 γ -GT) 脂質(LDL・HDLコレステロール、中性脂肪) その他(血糖、尿酸、血清アミラーゼ) ※H25～総コレステロール、血小板、クレアチニン追加
内科診察	○	○	○	○	自覚症状・他覚症状、既往歴、 業務歴等問診票に基づく問診	
※ 肺がん検診	—	—	—	△	胸部X線(間接)、喀痰検査	
※ 大腸がん検診	—	—	—	△	便潜血反応検査(2日法)	
※ 前立腺がん検診	△	△	△	△	※H29年から一般定期健康診断と同時実施	
※ 胃がんリスク検診	△	△	△	△	※H29年から一般定期健康診断と同時実施	

平成 28 年度及び平成 29 年度の各地区の定期健康診断時期及び実施場所は表 2 の通りであった。

表 2 各地区の実施日および実施場所

	地区名	実施時期	実施場所
平成 28 年度	吉田	基本健診:7/26(火)~8/5(金) * 受付:9:00~11:30 ※ 大腸がん検診、肺がん検診	保健管理センター
		附属学校 ・幼稚園 ・小学校 ・中学校 ・特別支援学校	
	小串	基本健診:9/7(水)~16(金) * 受付:9:30~12:30、14:00~16:00 ※ 大腸がん検診、肺がん検診	医学部医心館(保健管理センター小串分室) ※9/9・13・15・16 は胸部 X 線バス 2 台体制 ※9/16 は午前中(9:30~12:30)のみ
	常盤	基本健診:8/31(水)~9/1(金) * 受付:9:00~12:00 ※ 大腸がん検診、肺がん検診	工学部保健室(保健管理センター常盤分室)
	光	基本健診:8/23(火) * 受付:10:30~12:30 ※ 大腸がん検診、肺がん検診	附属光中学校保健室
平成 29 年度	吉田	基本健診:7/25(火)~8/3(木) * 受付:9:00~11:30 ※ 大腸がん検診、肺がん検診、 前立腺がん検診、胃がんリスク検診	保健管理センター
		附属学校 ・幼稚園 ・小学校 ・中学校 ・特別支援学校	
	小串	基本健診:9/11(月)~21(木) * 受付:9:30~12:30、14:00~16:00 ※ 大腸がん検診、肺がん検診、 前立腺がん検診、胃がんリスク検診	医学部医心館(保健管理センター小串分室) ※9/15・19・20・21 は胸部 X 線バス 2 台体制 ※9/21 は午前中(9:30~12:30)のみ
	常盤	基本健診:8/30(水)~9/1(金) * 受付:9:00~12:00 ※ 大腸がん検診、肺がん検診、 前立腺がん検診、胃がんリスク検診	工学部保健室(保健管理センター常盤分室)
	光	基本健診:8/17(木) * 受付:10:30~12:30 ※ 大腸がん検診、肺がん検診、 前立腺がん検診、胃がんリスク検診	附属光中学校保健室

2) 方法と手順

学生健康診断と同様に、平成 14 年度から身長・体重測定、血圧測定、尿検査、視力検査について、測定データを測定器からパソコンを介して健康診断専用サーバに自動入力するシステムを用いて実施している。

職員の健康診断では、受診対象者に健康診断問診票を事前配付しており、問診票にあらかじめ印刷された受診者バーコードを用いている。健康診断データ自動入力(取り込み)システムの導入によって、受診者

数の増加に伴う健康診断後の膨大なデータ整理作業にかかる手間が軽減された。その一方で、健康診断実施前の物品準備(問診票・バーコード付き尿コップ・胸部 X 線フィルム番号バーコード等)や検査機器とパソコンのセッティングに多少の労力を要し、健康診断要員を複数必要とするデメリットもある。

平成 23 年度からは、健康診断結果報告書作成までの期間短縮を図るため、入力されたデータに基づく健診結果自動判定システムをメディア基盤センター久長先生のご協力を得て、構築し運用している。自動判定システムを導入したことによって、検査所見や事後措置(指導区分)判定が一定の基準で行えるようになり、結果報告書も短期間で作成できるようになった。なお、このシステム導入に伴い、結果報告書の様式を前年分の経過(検査データ)も並べてみられるように変更し、平成 24 年度からは、2 年分の結果を掲載した報告書を通知している。さらに、「要精査」及び「要医療」判定であった者に対して、二次検査受診を促すことを目的とし、二次検査結果報告書様式を作成・発行し、結果報告書とともに通知している。

なお、光地区については、受診者数が少数であることや健診会場の広さ及び準備の都合から、自動入力システムを使用せず、従来通りの方法で健康診断を行い、健康診断後に検査データを手入力している。検査結果の判定は、自動判定システムで行っている。

平成 29 年度には、基本健診で採血した血液を用いて、前立腺がん検診(PSA 検査)及び胃がんリスク検診(ABC 検査)を同時に実施している(がん検診の詳細については、後述の「7. がん検診」参照)。

以下に、これらのシステムを用いた検査手順及び方法について具体的に記述する。

①身長・体重計測

測定には全自動身長体重計(タカ BF-220、DC-250)を 1 台使い、測定器とノート型パソコンを 1 対 1 で対応させている。検査要員として、パソコン操作及び測定結果の問診票への転記のために女性スタッフ(H27 年度以降、学外雇用者)を 1 名配置している。光地区については、全自動身長体重計(BF-220)を用い、手動操作で測定を行っている。

②血圧測定

測定には全自動血圧計(コリン BP203RVⅢA およびオムロンコリン BP203RVⅢB)を 2 台用いて行き、ノート型パソコン 1 台で測定器 2 台を操作する方法で行っている。検査要員として、パソコン操作及び測定結果の問診票への転記のために女性スタッフ(H27 年度以降、学外雇用者)を 1 名配置している。なお、保健管理センターでは二次検査は実施しておらず、すぐに医療機関へ受診する必要のない者(要観察・要注意)へは、医師の診察時に生活指導を行ったり、保健管理センター内に常時設置してある全自動血圧計で定期的な測定を促し、血圧チャートをつけて経過を見るなど個別にフォローアップを行っている。

③尿検査

検査には自動尿検査器(クリニテックアドバンタス)を 1 台使い、尿検査結果取り込み用パソコンを介して、検査データをサーバに蓄積している。検査手順は、事前準備として尿コップに尿検査番号バーコードを貼付し、検査当日に尿検査受付で問診票に印刷された受診者バーコードと尿検査番号をサーバに登録する。その後、自動尿検査器付属のスキヤナーで検体(尿コップ)の検査番号バーコードを読み取り、通常通りの検査を行う。

このシステムを用いることによって、尿検査結果の後日入力及び入力確認作業が不要となり、検査後の整理業務が大幅に軽減された。なお、検査受付及び検査は保健管理センタースタッフが担当している。

二次検査は保健管理センターで実施しておらず、要精密検査の指示のあった者には、各自で専門医療機関を受診するよう指示している。保健管理センターへ個別に相談があった場合には、再検査や生活指導などのアドバイスを行い、必要に応じて医療機関を紹介している。

④胸部 X 線検査

検査は外部の業者に委託してレントゲン車で実施している。具体的な手順としては、検査受付でフィルム番号バーコードシールを X 線受診票に貼付し、パソコンを介して受診者番号とともにサーバに登録する。その日の検査終了後に、受診者名簿(受付データ)を業者へ渡すと、2～3 週間後に検査結果がデータファイルで返却される。なお、40 歳以上の職員については、肺がん検診も兼ねるものとし、ハイリスク者及び希望者には喀痰検査(検査容器は事前配付し、受診時に提出)も行っている。また、一次検査の結果「要精査」と判定された有所見者については、保健管理センターの医師が前回までの結果(既往歴の有無など)を

確認した上で、必要に応じて、かかりつけ医あるいは大学周辺の医療機関への紹介を行っている。

⑤聴力検査

聴力検査は、オーディオメーター1台を用いて測定している。現在使用しているオーディオメーターは自動入力システムに対応していないため、他の検査と同様に問診票に印刷された受診者バーコードをスキャナーで読み取り、検査結果はパソコンの入力フォームに従ってバーコード操作で健康診断用サーバデータを蓄積している。検査要員として、パソコン操作及び測定結果の問診票への転記のために、看護職スタッフを1名雇用している。スクリーニングの基準は、1000Hz30dB、4000Hz40dBのレベルで判定している。なお、二次検査は保健管理センターでは実施しておらず、要精密検査の指示のあった者には、各自でかかりつけの医療機関を受診するよう指示するか、個別に相談のあった場合には、専門医療機関への紹介を行っている。

⑥視力検査

測定には全自動視力計(エデック NV300 およびエデック NV350N)を2台用いて行い、ノート型パソコン1台で測定器2台を操作する方法で行っている。検査要員として、パソコン操作及び測定結果の問診票への転記のために女性スタッフ(H27年度以降、学外雇用者)を1名配置している。

⑦心電図検査

方法は、自動解析付心電計(フクダ電子 FCP-5000、日本光電 ECG-2550)1台及びベット2台を用いて実施しており、保健管理センター看護職1名、介助者1名を雇用して検査を行っている。心電図検査については、現在、自動入力システムには対応していない。健康診断当日に診察担当医が所見の判定を行っているが、必要に応じて、附属病院循環器内科専門医が有所見者の事後措置判定を行っている。なお、二次検査は保健管理センターでは実施しておらず、要精密検査の指示のあった者には、各自でかかりつけの医療機関を受診するか、個別に相談のあった場合には、必要に応じて専門医療機関への紹介を行っている。

⑧血液検査

平成17年度から、受付時に受診者番号と採血番号を結び付けて自動取得するシステムを構築して運用している。具体的には、①受診者が受付に持参した問診票に印刷してある受診者バーコードを受付用パソコンにスキャナーで入力する。②採血対象者には受診日ごとに1番から連番で採血番号が付され、ラベルプリンタから採血ラベル(採血番号・採血年月日・氏名)が印刷される(問診票にクリップで添付)。③採血時に受診者が持参した採血ラベルを採血管に貼付して回収する、という方法である。このシステムを導入したことによるメリットとして、①事前の物品準備(採血管と採血ラベルへの番号記入)が不要になった。②受付作業がスムーズになった(採血ラベルへの日付印・氏名転記が不要)、③検体の取り違えの危険性がなくなった(採血時に本人の目の前で氏名のシールを貼付)、④予定外の受診者数にも対応可能など、多くの面で業務の効率化が図れた。

採血業務は各地区ともに2人体制で実施しており、雇用看護師および附属病院看護師(小串地区のみ)が担当している。なお、小串地区(医学部・附属病院)では、多人数に対し短期間で健診を実施するため、医療従事者については病棟等での自己採血制度を設けている。具体的手順は、希望者にあらかじめ採血セット(注射器、採血管、氏名ラベルバーコード)を配付し、受診日当日に採血した検体を健診会場受付に持参してもらっている。健診実施側と受診者側の双方にとって、健診にかかる時間短縮などの面でメリットがある。検査は、外部業者へ委託して実施しており、検査結果は電子データで報告してもらっている。

なお、二次検査は保健管理センターでは実施しておらず、要精密検査の指示のあった者には、各自でかかりつけの医療機関を受診するか、専門医療機関への紹介を行っている。個別に相談のあった場合には、異常値の程度に応じて生活指導をしたり、必要な情報の提供を行っている。

⑨腹囲測定

平成20年度より追加された項目である。手順としては、より計測の正確性を高めるため、心電図検査の直前に更衣を済ませた状態で、保健管理センター看護職あるいは女性スタッフ(学外雇用者)がメジャーを用いて計測している。測定結果は問診票に転記し、健診終了後に数値を手入力している。

3) 受診状況

(1) 職員健康診断概況

平成 28 年度及び平成 29 年度の職員健康診断受診状況を表 3～4 に示した。受診者は、保健管理センターで受診した者の他に、雇入時健康診断、人間ドック、その他健康診断の結果を提出した者の総数である。

平成 20 年度の学内規則改正から 10 年が経過しようとしている。職員健康診断の受診義務及び未受診者への措置が明記されたことで、健康診断受診の意識は高まり、受診率は平成 28 年度 99.9%、平成 29 年度ついに 100%を達成した。

また、健診受診者の事後措置に対するフォローアップを充実させるため、要精査以上(要医療・要治療)判定区分であった者に対し、二次検査結果の報告を強く求めることとしている。平成 27 年度から二次健康診断等給付についても積極的にアナウンスし、二次精査受診を促した。二次検査結果報告の義務は定めておらず、就業上の配慮について検討するため、要医療及び要治療判定区分であった者にはより強く(半強制的)、要精査判定区分であった者には、できる限り報告するよう協力と理解を求めている。今後は、さらなる受診率の維持、向上を図るとともに、健診後のフォローアップについても充実させ、山口大学全体の心身の健康状態を高めるよう働きかけていく必要がある。

表 3 職員健康診断受診状況 平成 28 年度

		対象者(人)	受診者(人)	受診率(%)	未受診者(人)
吉 田	人文学部	55	55	100.0	0
	教育学部	109	109	100.0	0
	経済学部	91	91	100.0	0
	理学部	89	89	100.0	0
	農学部	65	65	100.0	0
	共同獣医学部	86	85	98.8	1
	事務局	343	343	100.0	0
	その他	124	123	98.4	1
	合計	962	960	99.8	2
常盤		312	312	100.0	0
小串		498	498	100.0	0
附属病院		1376	1376	100.0	0
附属学校		166	166	100.0	0
総計		3350	3348	99.9	2

表 4 職員健康診断受診状況 平成 29 年度

		対象者(人)	受診者(人)	受診率(%)	未受診者(人)
吉 田	人文学部	56	56	100.0	0
	教育学部	114	114	100.0	0
	経済学部	92	92	100.0	0
	理学部	87	87	100.0	0
	農学部	64	64	100.0	0
	共同獣医学部	83	83	100.0	0
	事務局	326	326	100.0	0
	その他	123	123	100.0	0
	合計	945	945	100.0	0
常盤		312	312	100.0	0
小串		492	492	100.0	0
附属病院		1391	1391	100.0	0
附属学校		158	158	100.0	0
総計		3337	3337	100.0	0

(2) 身体計測 (BMI)

平成 28 年度及び平成 29 年度の BMI 値及び体脂肪率による判定結果を表 5～8 に示した。

男女別にみると、正常範囲であった者は、平成 28 年度及び平成 29 年度ともに約 5～6 割程度みられ、ここ数年同様の傾向を示している。また、低体重・体脂肪率低値では男性は全体の 15%程度であるが、女性は平成 28 年度 19.4%であったが、平成 29 年度は 24%と割合が高くなっていた。年齢別にみると、若年者ほど低体重・体脂肪率低値の割合が高く、肥満の割合が低い傾向がみられたが、平成 29 年度の女性に関しては年齢による割合の差はあまりみられなかった。

表 5 体格判定結果(事業場別)

平成 28 年度

事業場	受検者数	所見内訳				指導区分						
		低体重・体脂肪率低値	適正体重	過体重・過体重傾向	肥満・肥満傾向	a1	b1	c1	c2	d2	d3	n3
吉田	687	127	330	106	57				37	238	75	337
常盤	286	39	158	50	22				23	92	27	144
小串・附属病院	1635	285	731	147	359				67	504	312	752
附属学校	130	22	65	18	11				6	36	18	70
合計	2738	473	1284	321	449				133	870	432	1303

表 6 体格判定結果(年齢別・性別)

平成 28 年度

年齢	性別	受検者数	所見内訳				指導区分						
			低体重・体脂肪率低値	適正体重	過体重・過体重傾向	肥満・肥満傾向	a1	b1	c1	c2	d2	d3	n3
～29	男	105	28	36	16	4				2	27	30	46
	女	364	74	165	7	70				7	107	58	192
	計	469	102	201	23	74				9	134	88	238
30～39	男	363	56	154	59	14				13	102	57	191
	女	476	106	205	6	105				4	159	70	243
	計	839	162	359	65	119				17	261	127	434
40～49	男	346	43	186	96	19				37	132	35	142
	女	435	86	217	15	116				14	120	83	218
	計	781	129	403	111	135				51	252	118	360
50～59	男	240	24	133	74	8				23	97	18	102
	女	238	28	115	11	84				9	63	53	113
	計	478	52	248	85	92				32	160	71	215
60～	男	108	16	51	34	3				15	46	12	35
	女	63	12	22	3	26				9	17	16	21
	計	171	28	73	37	29				24	63	28	56
合計	男	1162	167	560	279	48				90	404	152	516
	女	1576	306	724	42	401				43	466	280	787
	計	2738	473	1284	321	449				133	870	432	1303

表 7 体格判定結果(事業場別)

平成 29 年度

事業場	受検者数	所見内訳				指導区分						
		低体重・体脂肪率低値	適正体重	過体重・過体重傾向	肥満・肥満傾向	a1	b1	c1	c2	d2	d3	n3
吉田	677	134	377	112	54				45	237	79	316
常盤	278	48	158	55	17				22	98	26	132
小串・附属病院	1666	342	963	184	177				63	493	189	921
附属学校	125	19	72	17	17				8	35	15	67
合計	2746	543	1570	368	265				138	863	309	1436

表 8 体格判定結果(年齢別・性別)

平成 29 年度

年齢	性別	受検者数	所見内訳				指導区分						
			低体重・体脂肪率低値	適正体重	過体重・過体重傾向	肥満・肥満傾向	a1	b1	c1	c2	d2	d3	n3
～29	男	107	24	57	15	11				4	26	20	57
	女	406	106	249	12	39				5	116	36	249
	計	513	130	306	27	50				9	142	56	306
30～39	男	354	50	212	71	21				12	90	44	208
	女	436	122	247	19	48				9	138	42	247
	計	790	172	459	90	69				21	228	86	455
40～49	男	342	41	181	95	25				38	136	37	131
	女	423	83	245	30	65				14	112	52	245
	計	765	124	426	125	90				52	248	89	376
50～59	男	264	33	147	77	7				30	108	29	97
	女	257	54	149	17	37				11	63	35	148
	計	521	87	296	94	44				41	171	64	245
60～	男	97	16	52	26	3				11	48	12	26
	女	60	14	31	6	9				4	26	2	28
	計	157	30	83	32	12				15	74	14	54
合計	男	1164	164	649	284	67				95	408	142	519
	女	1582	379	921	84	198				43	455	167	917
	計	2746	543	1570	368	265				138	863	309	1436

(3) 腹囲計測

平成 28 年度及び平成 29 年度の腹囲判定結果を表 9～12 に示した。

男女別にみると、正常範囲であった者は、平成 28 年度及び平成 29 年度ともに男性では約 5 割程度だが、女性では 9 割以上の者でみられ、ここ数年同様の傾向を示している。年齢別にみると、男性は若年者ほどやせの割合が高く 40 歳以上になると腹囲異常の割合が高い傾向がみられるが、女性は年齢による割合の差はあまりみられなかった。

表 9 腹囲判定結果(事業場別)

平成 28 年度

事業場	受検者数	所見内訳			指導区分						
		適正範囲	腹囲増加傾向	腹囲増加	a1	b1	c1	c2	d2	d3	n3
吉田	460	322	107	31				31	107		322
常盤	207	127	59	21				21	59		127
小串・附属病院	800	631	117	52				52	117		631
附属学校	79	66	8	5				5	8		66
合計	1546	1146	291	109	0	0	0	109	291	0	1146

表 10 腹囲判定結果(年齢別・性別)

平成 28 年度

年齢	性別	受検者数	所見内訳			指導区分						
			適正範囲	腹囲増加傾向	腹囲増加	a1	b1	c1	c2	d2	d3	n3
～29	男	1	1	0	0							1
	女	8	8	0	0							8
	計	9	9	0	0	0	0	0	0	0	0	9
30～39	男	55	35	15	4				4	15		35
	女	54	51	2	2				2	2		51
	計	109	86	17	6	0	0	0	6	17	0	86
40～49	男	346	196	114	36				36	114		196
	女	434	407	15	12				12	15		407
	計	780	603	129	48	0	0	0	48	129	0	603
50～59	男	240	131	87	22				22	87		131
	女	237	214	14	9				9	14		214
	計	477	345	101	31	0	0	0	31	101	0	345
60～	男	108	52	41	15				15	41		52
	女	63	51	3	9				9	3		51
	計	171	103	44	24	0	0	0	24	44	0	103
合計	男	750	415	257	77	0	0	0	77	257	0	415
	女	796	731	34	32	0	0	0	32	34	0	731
	計	1546	1146	291	109	0	0	0	109	291	0	1146

表 11 腹囲判定結果(事業場別)

平成 29 年度

事業場	受検者数	所見内訳			指導区分						
		適正範囲	腹囲増加傾向	腹囲増加	a1	b1	c1	c2	d2	d3	n3
吉田	465	313	116	36				36	172	56	201
常盤	199	126	54	19				19	78	17	85
小串・附属病院	807	641	122	44				47	250	94	416
附属学校	79	63	9	7				7	18	10	44
合計	1550	1143	301	106				109	518	177	746

表 12 腹囲判定結果(年齢別・性別)

平成 29 年度

年齢	性別	受検者数	所見内訳			指導区分						
			適正範囲	腹囲増加傾向	腹囲増加	a1	b1	c1	c2	d2	d3	n3
～29	男	0										
	女	1	1									1
	計	1	1									1
30～39	男	47	34	11	2				2	13	3	29
	女	63	63							13	7	43
	計	110	97	11	2				2	26	10	72
40～49	男	342	188	116	38				38	136	37	131
	女	420	395	14	11				13	111	52	244
	計	762	583	130	49				51	247	89	375
50～59	男	263	137	97	29				30	108	29	96
	女	257	235	11	11				11	63	35	148
	計	520	372	108	40				41	171	64	244
60～	男	97	41	45	11				11	48	12	26
	女	60	49	7	4				4	26	2	28
	計	157	90	52	15				15	74	14	54
合計	男	749	400	269	80				81	305	81	282
	女	801	743	32	26				28	213	96	464
	計	1550	1143	301	106				109	518	177	746

(4) 血圧測定

平成 28 年度及び平成 29 年度の血圧測定結果を表 13～16 に示した。

男女別にみると、各年度ともに、概ね 8 割以上の方は適正血圧に該当しているものの、男性と比較して女性の方が適正血圧の割合が多く、適正血圧を超えると、逆転して男性の比率が高くなる傾向がみられた。また、年齢別にみると、年齢層が高くなるにつれて適正血圧の割合が低くなり、高血圧に該当する者の割合が増加する傾向がみられた。血圧値は、測定手順や測定環境の影響を少なからず受けることが考えられるため、健康診断時には服装や測定のタイミング、室温や緊張感を与えない雰囲気等の環境づくりにも配慮する必要がある。小串・附属病院地区では健診会場が 2 階にあり、エレベーターが設置された為、階段を使用することによる血圧の変動に対して、エレベーター利用をアナウンスする等の配慮を行った。

表 13 血圧判定結果(事業場別)

平成 28 年度

事業場	受検者数	所見内訳					指導区分						
		低血圧	適正血圧	高血圧傾向	軽症高血圧	高血圧	a1	b1	c1	c2	d2	d3	n3
吉田	686	6	583	41	23	33			33	23	47		583
常盤	286		227	28	16	15			15	16	28		227
小串・附属病院	1634	14	1436	100	48	36			36	48	114		1436
附属学校	129	1	117	4	4	3			3	4	5		117
合計	2735	21	2363	173	91	87			87	91	194		2363

表 14 血圧判定結果(年齢別・性別)

平成 28 年度

年齢	性別	受検者数	所見内訳					指導区分						
			低血圧	適正血圧	高血圧傾向	軽症高血圧	高血圧	a1	b1	c1	c2	d2	d3	n3
～29	男	105		101	3	1	0				1	3		101
	女	363	8	350	2	1	2		2	1	10		350	
	計	468	8	451	5	2	2		2	2	13		451	
30～39	男	363		325	23	6			9	6	23		325	
	女	475	8	460	4	3	9			3	12		460	
	計	838	8	785	27	9	9		9	9	35		785	
40～49	男	345		270	39	16	20			20	16	39	270	
	女	435	5	396	16	11	7		7	11	21		396	
	計	780	5	666	55	27	27		27	27	60		666	
50～59	男	240		163	33	21	23			23	21	33	163	
	女	238		190	25	14	9		9	14	25		190	
	計	478	0	353	58	35	32		32	35	58		353	
60～	男	108		64	18	15	11			11	15	18	64	
	女	63		44	10	3	6		6	3	10		44	
	計	171	0	108	28	18	17		17	18	28		108	
合計	男	1161	0	923	116	59	54			63	59	116	923	
	女	1574	21	1440	57	32	33		24	32	78		1440	
	計	2735	21	2363	173	91	87		87	91	194		2363	

表 15 血圧判定結果(事業場別)

平成 29 年度

事業場	受検者数	所見内訳					指導区分						
		低血圧	適正血圧	高血圧傾向	軽症高血圧	高血圧	a1	b1	c1	c2	d2	d3	n3
吉田	675		562	57	21	35			30	26	57		562
常盤	278		227	14	18	19			19	18	14		227
小串・附属病院	1666	23	1425	113	57	48			48	57	136		1425
附属学校	125		112	8	3	2			2	3	8		112
合計	2744	23	2326	192	99	104			99	104	215		2326

表 16 血圧判定結果(年齢別・性別)

平成 29 年度

年齢	性別	受検者数	所見内訳					指導区分						
			低血圧	適正血圧	高血圧傾向	軽症高血圧	高血圧	a1	b1	c1	c2	d2	d3	n3
~29	男	107		101	4	1	1			1	1	4		101
	女	406	13	388	2	1	2			2	1	15		388
	計	513	13	489	6	2	3			3	2	19		489
30~39	男	353		308	21	12	12			12	12	21		308
	女	436	7	411	12	3	3			3	3	19		411
	計	789	7	719	33	15	15			15	15	40		719
40~49	男	342		252	45	27	18			17	28	45		252
	女	423	2	385	16	12	8			8	12	18		385
	計	765	2	637	61	39	26			25	40	63		637
50~59	男	263		172	38	21	32			30	23	38		172
	女	257	1	207	24	11	14			13	12	25		207
	計	520	1	379	62	32	46			43	35	63		379
60~	男	97		59	18	8	12			11	9	18		59
	女	60		43	12	3	2			2	3	12		43
	計	157	0	102	30	11	14			13	12	30		102
合計	男	1162	0	892	126	69	75			71	73	126		892
	女	1582	23	1434	66	30	29			28	31	89		1434
	計	2744	23	2326	192	99	104			99	104	215		2326

(5) 尿検査

平成 28 年度及び平成 29 年度の尿検査結果を表 17~20 に示した。

所見なしの者は、平成 28 年度及び平成 29 年度では 50%~60%であった。尿所見ありの内訳では潜血尿が最も多くなっている。その理由として、これまで女性で月経中の者については、潜血尿の所見があっても医師の判断で所見なしとしていたところを、平成 22 年度から有所見としてカウントし、所見を「尿所見異常(生理中)」として指導区分で便宜を図るよう変更されたことが影響していると思われる。なお、健診当日に尿検査を実施できない者については、後日でも検査を受検できるよう配慮している。

表 17 尿検査結果(事業場別)

平成 28 年度

事業場	受検者数	所見内訳				指導区分						
		なし	蛋白尿	糖尿	潜血尿	a1	b1	c1	c2	d2	d3	n3
吉田	682	343	199	10	195			45	2	65	227	343
常盤	284	151	65	2	83			13	0	33	87	151
小串・附属病院	1631	849	281	16	614			114	5	282	381	849
附属学校	129	87	16	1	28			4	0	13	25	87
合計	2726	1430	561	29	920			176	7	393	720	1430

※蛋白尿・潜血尿は(±)以上、糖尿は(+)以上を所見ありとした。所見は延べ数

表 18 尿検査結果(年齢別・性別)

平成 28 年度

年齢	性別	受検者数	所見内訳				指導区分						
			なし	蛋白尿	糖尿	潜血尿	a1	b1	c1	c2	d2	d3	n3
～29	男	105	70	28	0	10			6		3	26	70
	女	362	173	101	1	128			20	2	64	103	173
	計	467	243	129	1	138			26	2	67	129	243
30～39	男	363	233	72	2	66			11		27	92	233
	女	474	226	86	5	199			32	1	95	120	226
	計	837	459	158	7	265			43	1	122	212	459
40～49	男	345	237	67	4	51			10		16	82	237
	女	432	169	83	4	223			39	4	105	115	169
	計	777	406	150	8	274			49	4	121	197	406
50～59	男	239	148	50	5	51			11		19	61	148
	女	238	101	38	1	119			28		43	66	101
	計	477	249	88	6	170			39	0	62	127	249
60～	男	105	48	29	5	38			7		12	38	48
	女	63	25	7	2	35			12		9	17	25
	計	168	73	36	7	73			19	0	21	55	73
合計	男	1157	736	246	16	216			45	0	77	299	736
	女	1569	694	315	13	704			131	7	316	421	694
	計	2726	1430	561	29	920			176	7	393	720	1430

表 19 尿検査結果(事業場別)

平成 29 年度

事業場	受検者数	所見内訳				指導区分						
		なし	蛋白尿	糖尿	潜血尿	a1	b1	c1	c2	d2	d3	n3
吉田	674	392	134	10	185			40	7	73	162	392
常盤	278	158	60	2	77			21		23	76	158
小串・附属病院	1665	724	509	24	628			130	13	287	511	724
附属学校	124	68	22	1	42			10		13	33	68
合計	2741	1342	725	37	932			201	20	396	782	1342

※蛋白尿・潜血尿は(±)以上、糖尿は(+)以上を所見ありとした。所見は延べ数

表 20 尿検査結果(年齢別・性別)

平成 29 年度

年齢	性別	受検者数	所見内訳				指導区分						
			なし	蛋白尿	糖尿	潜血尿	a1	b1	c1	c2	d2	d3	n3
～29	男	107	64	38	0	17			3		10	30	64
	女	406	152	168	3	141			23	6	84	141	152
	計	513	216	206	3	158			26	6	94	171	216
30～39	男	354	225	77	3	66			10	3	22	94	225
	女	433	199	120	8	175			35	4	96	99	199
	計	787	424	197	11	241			45	7	118	193	424
40～49	男	342	229	74	4	48			13		21	79	229
	女	422	165	96	2	211			46	2	79	130	165
	計	764	394	170	2	259			59	2	100	209	394
50～59	男	264	143	74	8	64			16	1	24	80	143
	女	257	94	44	4	146			36	3	43	81	94
	計	521	237	118	12	210			52	4	67	161	237
60～	男	96	52	23	4	29			9		10	25	52
	女	60	19	11	1	35			10	1	7	23	19
	計	156	71	34	5	64			19	1	17	48	71
合計	男	1163	713	286	19	224			51	4	87	308	713
	女	1578	629	439	18	708			150	16	309	474	629
	計	2741	1342	725	37	932			201	20	396	782	1342

(6) 聴力検査

平成 28 年度及び平成 29 年度の聴力検査結果を表 21～24 に示した。

高齢になるにつれて、有所見者の割合が多くなっており、特に高音域難聴の所見を呈する者が目立っている。聴力検査の所見には、検査環境が少なからず影響していると思われる。現時点においても、聴力検査を実施する部屋は、設備の都合上、完全に防音できていないため、検査時の周囲の環境次第では誤判定してしまうことが否定できない。しかし、検査担当者に看護職を配置するなどして、操作手順上の精度は改善された。環境設備面に関しては、今後も引き続き、検査の正確性を確保するための工夫や配慮が必要と思われる。

表 21 聴力検査結果(事業場別)

平成 28 年度

事業場	受検者数	所見内訳								指導区分						
		正常		高音域聴力低下		低音域聴力低下		聴力低下		a1	b1	c1	c2	d2	d3	n3
		右	左	右	左	右	左	右	左							
吉田	687	654	649	20	22	1	5	12	11			12	1	41		633
常盤	286	277	274	6	9	0	0	3	3			0	0	16		270
小串・附属病院	1635	1603	1607	15	21	8	3	9	4			1	0	44		1590
附属学校	130	127	127	1	2	2	1	0	0			1	0	3		126
合計	2738	2661	2657	42	54	11	9	24	18			14	1	104		2619

表 22 聴力検査結果(年齢別・性別)

平成 28 年度

年齢	性別	受検者数	所見内訳								指導区分						
			正常		高音域聴力低下		低音域聴力低下		聴力低下		a1	b1	c1	c2	d2	d3	n3
			右	左	右	左	右	左	右	左							
～29	男	105	105	104	0	0	0	1	0	0			1	0	0	104	
	女	364	362	364	0	0	1	0	1	0			0	0	2	362	
	計	469	467	468	0	0	1	1	1	0			1	0	2	466	
30～39	男	363	360	359	1	1	1	0	1	3			0	0	5	358	
	女	476	471	473	2	1	2	2	1	0			3	0	4	469	
	計	839	831	832	3	2	3	2	2	3			3	0	9	827	
40～49	男	346	335	334	3	8	2	2	6	2			1	0	18	327	
	女	435	432	428	2	5	0	0	1	2			0	0	9	426	
	計	781	767	762	5	13	2	2	7	4			1	0	27	753	
50～59	男	240	223	223	12	11	0	1	5	5			4	1	19	216	
	女	238	231	232	3	6	2	0	2	0			0	0	10	228	
	計	478	454	455	15	17	2	1	7	5			4	0	29	444	
60～	男	108	83	80	19	20	1	2	5	6			5	0	31	72	
	女	63	59	60	0	2	2	1	2	0			0	0	6	57	
	計	171	142	140	19	22	3	3	7	6			5	0	37	129	
合計	男	1162	1106	1100	35	40	4	6	17	16			11	1	73	1077	
	女	1576	1555	1557	7	14	7	3	7	2			3	0	31	1542	
	計	2738	2661	2657	42	54	11	9	24	18			14	1	104	2619	

表 23 聴力検査結果(事業場別)

平成 29 年度

事業場	受検者数	所見内訳								指導区分						
		正常		高音域聴力低下		低音域聴力低下		聴力低下		a1	b1	c1	c2	d2	d3	n3
		右	左	右	左	右	左	右	左							
吉田	675	639	627	20	19	6	18	10	11			18		42		615
常盤	279	271	267	6	9	0	0	2	3					15		264
小串・附属病院	1665	1634	1637	20	21	4	2	7	5			2	1	40		1622
附属学校	125	122	122	2	2	1	1	0	0					4		121
合計	2744	2666	2653	48	51	11	21	19	19			20	1	101		2622

表 24 聴力検査結果(年齢別・性別)

平成 29 年度

年齢	性別	受検者数	所見内訳								指導区分						
			正常		高音域聴力低下		低音域聴力低下		聴力低下		a1	b1	c1	c2	d2	d3	n3
			右	左	右	左	右	左	右	左							
～29	男	107	106	106	0	0	1	1	0	0				1		106	
	女	406	403	405	0	0	2	1	1	0				3		403	
	計	513	509	511	0	0	3	2	1	0			0	4		509	
30～39	男	354	352	350	0	0	1	1	1	3			1	4		349	
	女	435	431	434	2	0	1	1	1	0			1	3		431	
	計	789	783	784	2	0	2	2	2	3			2	7		780	
40～49	男	342	330	331	5	5	1	3	6	3			1	19		322	
	女	423	422	419	1	3	0	1	0	0			1	4		418	
	計	765	752	750	6	8	1	4	6	3			2	23		740	
50～59	男	264	242	235	16	15	3	8	3	5			7	27		230	
	女	257	250	249	5	5	0	2	2	2			2	8		247	
	計	521	492	484	21	20	3	10	5	7			9	35		477	
60～	男	97	76	69	18	21	0	1	3	6			6	1	26	64	
	女	59	54	55	1	2	2	2	2	0			1	6		52	
	計	156	130	124	19	23	2	3	5	6			7	32		116	
合計	男	1164	1106	1091	39	41	6	14	13	17			15	77		1071	
	女	1580	1560	1562	9	10	5	7	6	2			5	24		1551	
	計	2744	2666	2653	48	51	11	21	19	19			20	1	101	2622	

(7) 胸部 X 線検査

平成 28 年度及び平成 29 年度の胸部 X 線検査結果を表 25～28 に示した。

この 2 年間についても受検者数は多く、大学法人化以降、労働安全衛生法の適用を受け、健康診断受診に対する意識改革がより浸透してきた結果であると思われる。

受診者の増加に伴い、有所見者も増加する傾向がみられる。精密検査の対象者のうち肺野で異常所見が見られ、二次検査結果が判明した所見としては、陳旧性炎症、慢性気管支炎などであった。また、肺野結節影と判定された所見に関しては、胸膜肥厚、肋骨変形などがみられた。胸部 X 線有所見者（要精査者以上）については、感染症等の観点からも必ず受診し、結果提出するよう求めており、特に病院のある小串・附属病院地区は年内の二次精査結果提出がなされている。

表 25 胸部 X 線検査結果(事業場別)

平成 28 年度

事業場	受検者数	所見内訳				指導区分						
		異常なし	肺野所見	肺野外所見	結核(疑い含)	a1	b1	c1	c2	d2	d3	n3
吉田	678	652	25	1	0		4	10	0	12	0	652
常盤	282	272	10	0	0		3	1	0	6	0	272
小串・附属病院	1604	1561	43	0	0		0	18	0	25	0	1561
附属学校	130	126	4	0	0		0	3	0	1	0	126
合計	2694	2611	82	1	0		7	32	0	44	0	2611

表 26 胸部 X 線検査結果(年齢別・性別)

平成 28 年度

年齢	性別	受検者数	所見内訳				指導区分						
			異常なし	肺野所見	肺野外所見	結核(疑い含)	a1	b1	c1	c2	d2	d3	n3
～29	男	104	102	2	0	0		0	1		1		102
	女	358	353	5	0	0		1	0		4		353
	計	462	455	7	0	0		1	1	0	5	0	455
30～39	男	363	356	7	0	0		1	5		1		356
	女	445	435	10	0	0		0	4		6		435
	計	808	791	17	0	0		1	9	0	7	0	791
40～49	男	347	335	12	0	0		2	6		4		335
	女	429	424	5	0	0		0	2		3		424
	計	776	759	17	0	0		2	8	0	7	0	759
50～59	男	241	227	14	0	0		0	6		8		227
	女	237	223	14	0	0		1	5		8		223
	計	478	450	28	0	0		1	11	0	16	0	450
60～	男	108	97	10	1	0		0	3		8		97
	女	62	59	3	0	0		2	0		1		59
	計	170	156	13	1	0		2	3	0	9	0	156
合計	男	1163	1117	45	1	0		3	21	0	22	0	1117
	女	1531	1494	37	0	0		4	11	0	22	0	1494
	計	2694	2611	82	1	0		7	32	0	44	0	2611

表 27 胸部 X 線検査結果(事業場別)

平成 29 年度

事業場	受検者数	所見内訳				指導区分						
		異常なし	肺野所見	肺野外所見	結核(疑い含)	a1	b1	c1	c2	d2	d3	n3
吉田	673	642	31					15		16		642
常盤	269	257	12					5		7		257
小串・附属病院	1632	1592	40	1				16		24		1592
附属学校	122	118	4					2		2		118
合計	2696	2609	87	1	0			38		49		2609

表 28 胸部 X 線検査結果(年齢別・性別)

平成 29 年度

年齢	性別	受検者数	所見内訳				指導区分						
			異常なし	肺野所見	肺野外所見	結核(疑い含)	a1	b1	c1	c2	d2	d3	n3
～29	男	107	104	3	1				2		1		104
	女	391	387	4				3		1		387	
	計	498	491	7	1	0			3		2		491
30～39	男	353	347	6				1		5		347	
	女	408	401	7		0		2		5		401	
	計	761	748	13	0	0		3		10		748	
40～49	男	339	329	10				5		5		329	
	女	417	406	11		0		7		4		406	
	計	756	735	21	0	0		12		9		735	
50～59	男	266	247	19				9		10		247	
	女	258	247	11				4		7		247	
	計	524	494	30	0	0		13		17		494	
60～	男	97	88	9				3		6		88	
	女	60	53	7				2		5		53	
	計	157	141	16	0	0		5		11		141	
合計	男	1162	1115	47	1	0		20		27		1115	
	女	1534	1494	40	0	0		18		22		1494	
	計	2696	2609	87	1	0		38		49		2609	

(8) 血液検査

平成 28 年度及び平成 29 年度の血液検査結果を表 29～32 に示した。

検査項目は、末梢血検査(赤血球、白血球、ヘマトクリット、ヘモグロビン)、肝機能検査(AST(GOT)、ALT(GPT)、 γ -GT(γ -GTP))、脂質検査(LDL コレステロール、HDL コレステロール、中性脂肪)、その他(血糖、血清アミラーゼ、尿酸)である。なお、本学では脂質検査として長年、総コレステロールを項目の 1 つとしていたが、平成 20 年度以降、特定健診開始及び労働安全衛生法改正に伴い、LDL コレステロールに変更した。また、平成 21 年度には、特定健診に併せて一部検査項目(末梢血、AST(GOT)、ALT(GPT)、血清アミラーゼ)の基準値が変更されている。平成 25 年度には血小板、クレアチニン、T-CHO の項目も追加された。また、平成 17 年度までは、血液検査の対象年齢を 35 歳及び 40 歳以上の者と、若年であっても医師の指示があった者としていたが、平成 18 年度以降、受診者の要望に応える形で予算が措置され、20 歳・25 歳・30 歳の節目年齢に加え、39 歳以下の希望者にも血液検査を実施することが可能となった。血液検査対象者の増加に伴い、健診当日の混雑や結果判定の整理にかかる作業量が増えたことも否めない。健診後の事後処理の効率化を図るため、平成 23 年に健診結果自動判定システムを構築・導入した。スムーズな運用のためには、まだ若干の改良が必要であるが、整理作業の簡略化は実現できたと思われる。

表 29 血液検査結果(事業場別)

平成 28 年度

事業場	受検者数	有所見者数	指導区分							
			a1	b1	c1	c2	d2	d3	n3	
吉田	613	血液一般(貧血等)	116		3	16	0	10	87	497
		肝機能	112		4	46	48	12	2	501
		脂質代謝	393	1	15	78	141	61	97	220
		糖代謝	93		7	7	24	55	0	520
		痛風	102		3	31	59	0	9	511
		腎機能	30		1	1	1	27	0	583
常盤	269	血液一般(貧血等)	51		1	6	0	13	31	218
		肝機能	56		0	27	23	6	0	213
		脂質代謝	175		4	36	67	24	44	94
		糖代謝	36		3	2	11	20	0	233
		痛風	52		1	19	27	0	5	217
		腎機能	15		0	0	0	15	0	254
小串・附属病院	1505	血液一般(貧血等)	273		4	36	0	39	194	1232
		肝機能	231		1	74	131	22	3	1274
		脂質代謝	907		8	127	324	134	314	598
		糖代謝	137		5	15	39	78	0	1368
		痛風	152		1	32	87	0	32	1353
		腎機能	71		1	0	0	70	0	1432
附属学校	115	血液一般(貧血等)	23		0	1	0	3	19	92
		肝機能	17		0	13	3	0	1	98
		脂質代謝	70		4	13	24	6	23	45
		糖代謝	8		1	4	0	3	0	107
		痛風	16		0	5	10	0	1	99
		腎機能	7		0	0	0	7	0	108
合計	2502	血液一般(貧血等)	463	0	8	59	0	65	331	2039
		肝機能	416	0	5	160	205	40	6	2086
		脂質代謝	1545	1	31	254	556	225	478	957
		糖代謝	274	0	16	28	74	156	0	2228
		痛風	322	0	5	87	183	0	47	2180
		腎機能	123	0	2	1	1	119	0	2377

表 30 血液検査結果(年齢別・性別)

平成 28 年度

年齢	性別	受検者数	有所見者数		指導区分								
					a1	b1	c1	c2	d2	d3	n3		
~29	男	386	血液一般(貧血等)	4	0			1			3	80	
			肝機能	17				7	6	4			67
			脂質代謝	45				8	16	10	11		39
			糖代謝	1							1		83
			痛風	18				7	10			1	66
			腎機能	6							6		78
			血液一般(貧血等)	50					9		5	36	252
	女	302	肝機能	25				3	14	15	3	277	
			脂質代謝	117					11	32	36	98	125
			糖代謝	17						2	15		285
			痛風	5						1		4	297
			腎機能	12							12		290
			血液一般(貧血等)	31					1		6	24	249
			30~39	男	280	肝機能	52				32	19	1
脂質代謝	169						5	39	62	26	37	111	
糖代謝	15						1	2	3	9			265
痛風	65							18	44			3	215
腎機能	10										10		270
血液一般(貧血等)	13						1	9			11	52	341
女	414	肝機能				39				5	25	7	1
		脂質代謝		240					14	56	44	126	174
		糖代謝		19			1	4	5	9			395
		痛風		16						2		14	398
		腎機能		20			1				19		394
		血液一般(貧血等)		51				3			8	40	293
		40~49		男	344	肝機能	98			2	55	35	5
脂質代謝	218						1	7	53	93	35	29	126
糖代謝	47						3		11	33			297
痛風	110						3	30	73			4	234
腎機能	16										16		328
血液一般(貧血等)	108						5	26			10	67	326
女	434		肝機能			48				7	34	6	1
			脂質代謝	261			4	29	85	40	103	173	
			糖代謝	22			2	2	5	13			412
			痛風	14				1	1			12	420
			腎機能	19				1	18				415
			血液一般(貧血等)	51				3			9	29	189
			50~59	男	240	肝機能	57			2	25	23	7
脂質代謝	155							7	36	74	20	18	85
糖代謝	63						3	8	20	32			177
痛風	64						1	25	33			5	176
腎機能	15						1			1	13		225
血液一般(貧血等)	55						2	4			8	41	183
女	238	肝機能				43				15		27	1
		脂質代謝		167			5	37	77	4	44	71	
		糖代謝		31			1	2	11	17			207
		痛風		6				1	3			2	232
		腎機能		10							10		228
		血液一般(貧血等)		28				3			4	21	76
		60~		男	104	肝機能	22			1	10	8	3
脂質代謝	68							3	14	36	8	7	36
糖代謝	42						3	4	16	19			62
痛風	24						1	5	16			2	80
腎機能	8										8		96
血液一般(貧血等)	12										4	8	50
女	62		肝機能			16				1	14	1	
			脂質代謝	45					13	25	2	5	17
			糖代謝	17			1	3	5	8			45
			痛風	0									62
			腎機能	7							7		55

表 31 血液検査結果(事業場別)

平成 29 年度

事業場	受検者数	有所見者数	指導区分							
			a1	b1	c1	c2	d2	d3	n3	
吉田	602	血液一般(貧血等)	101			15	1	16	69	501
		肝機能	112		3	45	53	11		490
		脂質代謝	356		9	49	126	47	125	246
		糖代謝	109		2	6	31	70		493
		痛風	105		2	37	50		16	497
		腎機能	30			1	1	28		572
常盤	265	血液一般(貧血等)	53			8		12	33	212
		肝機能	52			26	20	6		213
		脂質代謝	176		3	21	63	37	52	89
		糖代謝	38		3	6	6	23		227
		痛風	46			11	32		3	219
		腎機能	16					16		249
小串・附属病院	1498	血液一般(貧血等)	267		3	40		55	169	1231
		肝機能	246	1	4	92	118	29	2	1252
		脂質代謝	827		7	89	220	163	348	671
		糖代謝	161	1	4	19	42	95		1337
		痛風	170			36	96		38	1328
		腎機能	61		1			60		1437
附属学校	114	血液一般(貧血等)	17			1		8	8	97
		肝機能	27		1	10	15	1		87
		脂質代謝	73		1	14	15	11	32	41
		糖代謝	11		1	2	1	7		103
		痛風	17		1	7	9			97
		腎機能	5					5		109
合計	2479	血液一般(貧血等)	438	0	3	64	1	91	279	2041
		肝機能	437	1	8	173	206	47	2	2042
		脂質代謝	1432	0	20	173	424	258	557	1047
		糖代謝	319	1	10	33	80	195	0	2160
		痛風	338		3	91	187		57	2141
		腎機能	112		1		1	109		2367

表 32 血液検査結果(年齢別・性別)

平成 29 年度

年齢	性別	受検者数	有所見者数		指導区分						
					a1	b1	c1	c2	d2	d3	n3
~29	男	77	血液一般(貧血等)	7					3	4	79
			肝機能	17			10	5	2		69
			脂質代謝	48		1	7	10	13	17	38
			糖代謝	2					2		84
			痛風	23			7	14		2	63
			腎機能	3					3		83
			血液一般(貧血等)	50			5		10	35	269
	女	279	肝機能	23			5	8	8	2	296
			脂質代謝	172			5	22	43	102	147
			糖代謝	22			4	5	13		297
			痛風	5			1			4	314
			腎機能	16					16		303
			血液一般(貧血等)	30			2		10	18	234
			肝機能	61	1	3	34	17	6		203
30~39	男	250	脂質代謝	151		5	29	62	28	27	113
			糖代謝	29		1	4	7	17		245
			痛風	73		1	22	43		7	191
			腎機能	5					5		259
			血液一般(貧血等)	73			11		23	39	296
			肝機能	33			6	19	8		336
			脂質代謝	201		1	9	22	41	12	168
	女	421	糖代謝	19		2	3	3	11		350
			痛風	13				4		9	356
			腎機能	20					20		349
			血液一般(貧血等)	40			4		10	26	303
			肝機能	99		3	54	40	2		244
			脂質代謝	208		4	32	103	28	41	135
			糖代謝	64		4	2	14	44		279
40~49	男	344	痛風	100		1	26	69		4	243
			腎機能	14					14		329
			血液一般(貧血等)	109		2	25	1	13	68	315
			肝機能	56			11	37	8		368
			脂質代謝	234		2	24	42	43	123	190
			糖代謝	26	1		3	7	15		398
			痛風	17			1			16	407
	女	400	腎機能	18		1			17		406
			血液一般(貧血等)	47			8		8	31	217
			肝機能	70		1	31	31	7		194
			脂質代謝	174		2	27	83	33	29	90
			糖代謝	83		2	11	23	47		181
			痛風	90		1	29	47		13	430
			腎機能	21			1	1	19		243
50~59	男	234	血液一般(貧血等)	53		1	6		8	38	203
			肝機能	46			14	30	2		210
			脂質代謝	153		3	28	43	14	65	103
			糖代謝	27			1	7	19		229
			痛風	9			1	3		5	247
			腎機能	7					7		249
			血液一般(貧血等)	17			3		3	11	78
	女	227	肝機能	19		1	6	8	4		76
			脂質代謝	58		2	7	19	13	17	37
			糖代謝	32		1	2	11	18		63
			痛風	17			6	9		2	78
			腎機能	4					4		91
			血液一般(貧血等)	12					3	9	47
			肝機能	13			2	11			46
60~	男	123	脂質代謝	33			5	18	2	8	26
			糖代謝	15			3	3	9		44
			痛風	0							59
			腎機能	4					4		55
			血液一般(貧血等)	17			3		3	11	78
			肝機能	19		1	6	8	4		76
			脂質代謝	58		2	7	19	13	17	37
	女	66	糖代謝	32		1	2	11	18		63
			痛風	17			6	9		2	78
			腎機能	4					4		91
			血液一般(貧血等)	12					3	9	47
			肝機能	13			2	11			46
			脂質代謝	33			5	18	2	8	26
			糖代謝	15			3	3	9		44

(9)心電図検査

平成 28 年度及び平成 29 年度の心電図検査結果を表 33～36 に示した。表中の数字は、各所見に該当する有所見者の人数を延べ数で示している。

心電図検査は、原則として 35 歳及び 40 歳以上の者を実施しているが、39 歳未満の者でも、診察時に医師から指示があった者については検査を実施している。心電図所見の確定と指導区分は、平成 22 年度から、より効率良く判定を行うため、診察医が必要と認めた場合には、保健管理センター非常勤医師(循環器専門医)に判定を依頼している。受検者数は年々増加しているものの、有所見者数はそれに伴って増加する傾向はみられていない。

表 33 心電図検査結果(事業場別)

平成 28 年度

事業場	受検者数	所見内訳						指導区分						
		正常範囲内	ST-T変化	Q波	高電位	不整脈	その他所見	a1	b1	c1	c2	d2	d3	n3
吉田	458	318	15	5	4	17	119			10		34	96	318
常盤	209	150	5	0	0	7	54			5	1	3	53	147
小串・附属病院	800	680	38	2	1	17	74			13		86	66	635
附属学校	82	60	2	0	0	2	16			5		8	9	60
合計	1549	1208	60	7	5	43	263			33	1	131	224	1160

※ ST-T 変化には、ST 低下(上昇)・陰性 T・平低 T・高い T 波を含む

※ 不整脈には、上室性期外収縮・心室性期外収縮・房室ブロック・心房細動・WPW 症候群・ブルガダ症候群を含む

表 34 心電図検査結果(年齢別・性別)

平成 28 年度

年齢	性別	受検者数	所見内訳						指導区分						
			正常範囲内	ST-T変化	Q波	高電位	不整脈	その他所見	a1	b1	c1	c2	d2	d3	n3
～29	男	2	2	0	0	0	0	0						2	
	女	6	4	0	0	0	0	2					2	4	
	計	8	6	0	0	0	0	2			0	0	0	2	6
30～39	男	56	41	2	0	0	3	21			3		2	11	40
	女	57	46	2	0	0	2	3					6	6	45
	計	113	87	4	0	0	5	24			3	0	8	17	85
40～49	男	345	288	3	1	3	6	49			4		15	50	276
	女	434	338	20	0	0	10	56			9		49	53	323
	計	779	626	23	1	3	16	105			13	0	64	103	599
50～59	男	241	176	7	4	2	9	65			6		22	48	165
	女	237	191	15	0	0	5	33			3		20	27	187
	計	478	367	22	4	2	14	98			9	0	42	75	352
60～	男	108	76	5	2	0	6	22			3	1	10	20	74
	女	63	46	6	0	0	2	12			5		7	7	44
	計	171	122	11	2	0	8	34			8	1	17	27	118
合計	男	752	583	17	7	5	24	157			16	1	49	129	557
	女	797	625	43	0	0	19	106			17	0	82	95	603
	計	1549	1208	60	7	5	43	263			33	1	131	224	1160

表 35 心電図検査結果(事業場別)

平成 29 年度

事業場	受検者数	所見内訳						指導区分						
		正常範囲内	ST-T変化	Q波	高電位	不整脈	その他所見	a1	b1	c1	c2	d2	d3	n3
吉田	465	332	12	1	2	18	106			10		28	95	332
常盤	200	170	2	1	1	12	19			2		9	20	169
小串・附属病院	812	712	6		1	26	77			16		77	23	696
附属学校	78	46	6	1	1	7	20			2		13	17	46
合計	1555	1260	26	3	5	63	222			30		127	155	1243

※ ST-T 変化には、ST 低下(上昇)・陰性 T・平低 T・高い T 波を含む

※ 不整脈には、上室性期外収縮・心室性期外収縮・房室ブロック・心房細動・WPW 症候群・ブルガダ症候群を含む

表 36 心電図検査結果(年齢別・性別)

平成 29 年度

年齢	性別	受検者数	所見内訳						指導区分						
			正常範囲内	ST-T変化	Q波	高電位	不整脈	その他所見	a1	b1	c1	c2	d2	d3	n3
~29	男	1					1							1	
	女	2	1				1						1		1
	計	3	1	0	0	0	2	0			0		1	1	1
30~39	男	48	44				2	2						5	43
	女	64	57				4	3					3	6	55
	計	112	101	0	0	0	6	5			0		3	11	98
40~49	男	340	293	4	2	1	10	36			9		16	26	289
	女	423	350	11			16	53			7		36	33	347
	計	763	643	15	2	1	26	89			16		52	59	636
50~59	男	263	191	3			3	15	56		3		29	44	187
	女	257	210	5				5	41		4		30	16	207
	計	520	401	8	0		3	20	97		7		59	60	394
60~	男	97	69	1			1	9	19		3		7	18	69
	女	60	45	2	1				12		4		5	6	45
	計	157	114	3	1		1	9	31		7		12	24	114
合計	男	749	597	8	2	5	37	113			15		52	94	588
	女	806	663	18	1	0	26	109			15		75	61	655
	計	1555	1260	26	3	5	63	222			30		127	155	1243

2. 特定業務従事者健康診断

1) 対象と概要

保健管理センターでは、労働安全衛生規則第 45 条に基づき、年に 2 回、規定の業務(労働安全衛生規則第 13 条第 1 項第 2 号*)に従事する職員に対し、特定業務従事者健康診断を行っている。

各地区の実施時期、及び実施場所は表 37 のとおりであるが、健診項目は定期健康診断と同様のため、第 1 回目は定期健康診断と合わせて行っている。また、第 2 回目の項目は、身長・体重、血圧、視力、聴力、尿検査であり、胸部 X 線検査、血液検査、心電図検査は医師の判断により省略可能としているが、必要に応じて行う場合もある。

平成 28 年度、29 年度における各事業場の該当者数(延べ数)は、表 38～39 のとおりである。

表 37 各地区の実施日および実施場所

地区名	実施時期				実施場所
	平成 28 年度		平成 29 年度		
	1 回目	2 回目	1 回目	2 回目	
吉田	7 月下旬～ 8 月上旬	1 月下旬～ 2 月上旬	7 月下旬～ 8 月上旬	1 月下旬	保健管理センター
常盤	8 月下旬～ 9 月上旬	1 月下旬～ 2 月上旬	8 月下旬～ 9 月上旬	1 月下旬～ 2 月上旬	工学部保健室 (保健管理センター工学部分室)
小串 附属病院	9 月中旬	3 月上旬	9 月中旬	3 月上旬	医学部医心館 (保健管理センター医学部分室)

表 38 特定業務従事者健康診断対象者

平成 28 年度

	イ	ロ	ハ	ニ	ホ	ヘ	ト	チ	リ	ヌ	ル	ヲ	ワ	計
吉田	0	2	28	22	0	0	0	0	0	5	12	19	12	52
常盤	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	13	0	0	15
小串	0	2	7	5	0	0	0	0	0	7	0	1	11	33
附属病院	0	4	67	1	0	0	15	4	0	783	3	1	136	1014

表 39 特定業務従事者健康診断対象者

平成 29 年度

	イ	ロ	ハ	ニ	ホ	ヘ	ト	チ	リ	ヌ	ル	ヲ	ワ	計
吉田	0	1	21	23	0	0	1	0	0	14	13	9	7	51
常盤	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	9	0	0	11
小串	0	1	12	14	0	0	0	0	0	6	2	5	8	48
附属病院	0	6	79	1	0	0	15	2	0	786	6	1	123	1019

*労働安全衛生規則第 13 条第 1 項第 2 号

イ	多量の高熱物体を取り扱う業務及び著しく暑熱な場所における業務
ロ	多量の低温物体を取り扱う業務及び著しく寒冷な場所における業務
ハ	ラジウム放射線、エックス線その他の有害放射線にさらされる業務
ニ	土石、獣毛等のじんあい又は粉末を著しく飛散する場所における業務
ホ	異常気圧下における業務
ヘ	さく岩機、鋸打機等の使用によって、身体に著しい振動を与える業務
ト	重量物の取扱い等重激な業務
チ	ボイラー製造等強烈な騒音を発する場所における業務
リ	坑内における業務
ヌ	深夜業を含む業務
ル	水銀、砒素、黄りん、弗化水素酸、塩酸、硝酸、硫酸、青酸、か性アルカリ、石炭酸 その他これらに準ずる有害物を取り扱う業務
ヲ	鉛、水銀、クロム、砒素、黄りん、弗化水素、塩素、塩酸、硝酸、亜硫酸、硫酸、一酸化炭素、二硫化炭素、青酸、ベンゼン、アニリンその他これらに準ずる有害物のガス、蒸気又は粉じんを飛散する場所における業務
ワ	病原体によって汚染のおそれが著しい業務

2) 方法と手順

対象者の調査に関しては、例年 5～7 月頃、健康診断の希望項目(便潜血反応検査、喀痰検査等)の調査と合わせて、安全衛生対策室及び各部局の健康診断担当係が実施している。調査内容は有害業務従事の有無、従事している場合は、その業務内容及び頻度、そして複数該当する場合は、主として従事する有害業務は何か、である。調査結果は各事業場の健康診断担当係及び専任衛生管理者等が確認し、主に週 1 回以上、有害業務に従事していると回答した者を対象に、健康診断を実施している。

実施方法は、ほぼ定期健康診断と同様であり、対象者に事前に問診票を送付し、健診当日までに記入し持参するよう指示している。しかし、受診者が少ない場合は事前に配布せず、健康診断時受診時に記入してもらうこともある。

また、附属病院の特定業務従事者(看護師)は各病棟で必要な検査を行い、検査結果を問診票に記入して保健管理センターに送付してもらっている。各検査結果と問診票の記載内容は保健管理センター医師が確認し、有所見者には指定された期間に保健管理センターで診察を受けるよう指示している。本来であれば全員に診察をすることが望ましいが、限られた人員と日数で行っているため、対象を絞って実施せざるを得ないのが現状である。

3) 受診状況

平成 28 年度及び 29 年度の特定業務従事者健康診断の受診状況を、表 40～41 に示した。表中の数字は、実施した検査の有所見者数を示している(-は未実施)。なお、前述のとおり、第 1 回の特定業務従事者健康診断実施状況は、定期健康診断と合わせて実施しているため、ここでは第 2 回目だけの受診状況を示す。

なお、職員に関する健康診断結果は、各事業場専任衛生管理者がとりまとめた上で、所轄の労働基準監督署に報告している。

表 40 第 2 回特定業務従事者健康診断 受診状況

平成 28 年度

	受診者	実施項目の有所見者数								有所見者数	要精査
		聴力検査 1000Hz	聴力検査 4000Hz	聴力検査 (その他の方法)	血圧	肝機能	尿糖	尿蛋白	心電図		
吉田	52	0	1	-	4	-	2	0	-	34	2
常盤	15	0	0	-	1	0	0	1	-	2	0
小串	31	-	-	0	4	-	1	2	1	19	7
附属病院	1000	-	-	0	80	-	6	5	3	720	29

表 41 第 2 回特定業務従事者健康診断 受診状況

平成 29 年度

	受診者	有所見者数								有所見者数	要精査
		聴力検査 1000Hz	聴力検査 4000Hz	聴力検査 (その他の方法)	血圧	肝機能	尿糖	尿蛋白	心電図		
吉田	51	0	3	-	10	-	1	0	-	41	1
常盤	11	0	0	-	1	0	2	0	-	3	0
小串	27	-	-	2	5	-	0	1	-	8	2
附属病院	979	-	-	5	73	-	6	10	0	94	20

3. 特殊健康診断(電離放射線)

1) 対象と概要

保健管理センターでは、「国立大学法人山口大学放射線障害予防規定」に基づき、学内の放射線取扱者の登録申請（更新を含む）を行った職員及び学生を対象に健康診断を実施している（医学部附属病院で放射線を取扱う職員は、附属病院が実施）。この健康診断を受診することは、学内で放射線を取り扱うための必須条件となっている。

この健康診断は定期的に年2回実施しており、実施時期は原則として第1回目は7月上旬、第2回目は2月上旬である。小串事業場や吉田事業場（一部）では、上記の健康診断実施期間外（4月、10月頃）に、臨時で健康診断を実施することもある。これは、新規・中途採用者など、定期の実施期間以前から放射線業務に従事する必要がある者に対し、期日を定めて行っている例外的措置である。

なお、附属病院や外部医療機関にてこれと同様の健康診断を受診し、その結果を証明する文書を提出することでも、この健康診断の受診に代えることができる。

健康診断の実施項目は、表42に示すとおりである。なお、法令に定める検査項目のうち、業務内容や被ばく歴、自覚症状等の調査結果、および過去の放射線健康診断の受診結果のもと、法令等に基づき医師の判断により検査項目を省略することもできる。

表42 放射線健康診断 法定検査項目

	被ばく歴 自覚症状等の調査	血液※	皮膚	白内障
新規受診	○	○	○	△
定期受診	○	△	△	△

※白血球数及び白血球百分率の検査、赤血球数及び血色素量又はヘマトクリット値の検査

○：必須項目 △：法令等に基づき医師の判断により省略することができる項目

2) 方法と手順

健康診断に先立ち、問診票を各事業場の健康診断担当係が対象者へ配布し、本人による記入、管理者（指導教員・管理室長等）が記載内容を確認した後、担当係が回収を行い、保健管理センターに送付される。

この問診票をもとに、保健管理センター医師が被ばく歴や自覚症状、過去の検査結果や本人の検査希望等をチェックし、検査項目省略の可否を決定している。検査実施対象者への健康診断日時等の案内については、担当係より通知される。

検査（血液・皮膚）は各地区保健管理センターにて実施し、検査結果及びそれに基づく就業上の措置に関する医師の意見は、担当係を通じて対象者へ通知される。有所見者に対しては、必要に応じて外部医療機関への紹介を行うこともある。

（健康診断結果に基づく就業上の措置については、上記の「医師の意見」等を参考に「決定」され、本人に通知される。）

なお、職員に関する健康診断結果は、各事業場専任衛生管理者がとりまとめ、産業医の確認をうけた上で、安全衛生対策室を通じ所轄の労働基準監督署に報告している。

3) 受診状況

平成28年度及び平成29年度の放射線健康診断受診状況を表43～50に示した。

毎年度、第1回は検査対象者（省略否判定者）数が第2回に比べ多い傾向にあるが、構成員の入れ替わりにより新規登録者が多いことが主要因である。

表 43 第 1 回（臨時）電離放射線健康診断受診状況 平成 28 年度

		対象者	検査 省略可	検査 対象者	検査受診者 (採血・皮膚)	有所見者
吉田	職員	7	0	7	7	0
	学生	-	-	-	-	-
常盤	職員	-	-	-	-	-
	学生	-	-	-	-	-
小串	職員	9	0	8	5(※未受診 3)	0
	学生	9	0	9	3(※未受診 6)	0
合計	職員	16	0	15	12	0
	学生	9	0	9	3	0

表 44 第 1 回電離放射線健康診断受診状況 平成 28 年度

		対象者	検査 省略可	検査 対象者	検査受診者 (採血・皮膚)	有所見者
吉田	職員	72	57	15	15	1
	学生	150	73	77	73(※未受診 4)	5
常盤	職員	29	27	2	2	0
	学生	164	86	78	78	13
小串	職員	83	83	0	-	-
	学生	13	13	0	-	-
合計	職員	184	167	17	17	1
	学生	327	172	155	151	18

表 45 第 2 回（臨時）電離放射線健康診断受診状況 平成 28 年度

		対象者	検査 省略可	検査 対象者	検査受診者 (採血・皮膚)	有所見者
吉田	職員	-	-	-	-	-
	学生	1	0	1	1	0
常盤	職員	-	-	-	-	-
	学生	-	-	-	-	-
小串	職員	2	0	2	2	0
	学生	3	0	3	3	1
合計	職員	2	0	2	2	0
	学生	4	0	4	4	1

表 46 第 2 回電離放射線健康診断受診状況 平成 28 年度

		対象者	検査 省略可	検査 対象者	検査受診者 (採血・皮膚)	有所見者
吉田	職員	73	58	15	15	0
	学生	161	139	22	22	4
常盤	職員	30	30	0	-	-
	学生	161	148	13	13	4
小串	職員	82	82	0	-	-
	学生	17	15	2	1(※未受診 1)	0
合計	職員	185	170	15	15	0
	学生	339	302	37	36	8

表 47 第 1 回 (臨時) 電離放射線健康診断受診状況 平成 29 年度

		対象者	検査 省略可	検査 対象者	検査受診者 (採血・皮膚)	有所見者
吉田	職員	2	0	2	2	0
	学生	-	-	-	-	-
常盤	職員	-	-	-	-	-
	学生	1	0	1	1	0
小串	職員	7	0	7	7	1
	学生	8	0	8	5(※未受診 3)	1
合計	職員	9	0	9	9	1
	学生	9	0	9	6	1

表 48 第 1 回電離放射線健康診断受診状況 平成 29 年度

		対象者	検査 省略可	検査 対象者	検査受診者 (採血・皮膚)	有所見者
吉田	職員	68	58	10	10	1
	学生	147	85	62	61(※未受診 1)	6
常盤	職員	29	28	1	1	0
	学生	170	87	83	82(※未受診 1)	13
小串	職員	72	72	0	-	-
	学生	15	12	3	2(※未受診 1)	1
合計	職員	169	158	11	11	1
	学生	332	184	148	145	20

表 49 第 2 回 (臨時) 電離放射線健康診断受診状況 平成 29 年度

		対象者	検査 省略可	検査 対象者	検査受診者 (採血・皮膚)	有所見者
吉田	職員	2	0	2	2	0
	学生	-	-	-	-	-
常盤	職員	-	-	-	-	-
	学生	-	-	-	-	-
小串	職員	4	0	4	4	0
	学生	2	0	2	2	0
合計	職員	6	0	6	6	0
	学生	2	0	2	2	0

表 50 第 2 回電離放射線健康診断受診状況 平成 29 年度

		対象者	検査 省略可	検査 対象者	検査受診者 (採血・皮膚)	有所見者
吉田	職員	74	63	11	11	2
	学生	172	138	34	34	5
常盤	職員	27	27	0	-	-
	学生	166	155	11	11	5
小串	職員	73	73	0	-	-
	学生	17	15	2	2	1
合計	職員	174	163	11	11	2
	学生	355	308	47	47	11

4. 特殊健康診断(有機溶剤・特定化学物質)

1) 対象と概要

有機溶剤中毒予防規則(以下有機則)、及び特定化学物質等障害予防規則(以下特化則)等に基づき、規定された薬品を常時取り扱う職員を対象に、年2回、特殊健康診断を実施している。

実施時期に関しては、基本的に放射線健康診断と同様の7月上旬頃(第1回)、2月上旬頃(第2回)であるが、事業場によって多少異なっている。また、健康診断項目は、薬品ごとに異なるため、それぞれの規則に定められている検査項目に従っている。

大学は一般の企業とは違い、少量多種の薬品を取り扱い、使用方法や、使用頻度が一定ではないことなどから、対象者の選定は特に困難である。また、取り扱う薬品によって求められる検査項目が異なるため、健康診断の準備や事後整理が複雑であるが、受診者一人一人の状況を確認しながら実施している。

2) 方法と手順

健康診断に先立ち有機溶剤及び特定化学物質の使用状況を Web 調査もしくは紙媒体による調査を行う。なお、週に1回以上使用していることを目安に対象者を選定しているが、週1回未満の使用状況でも健康診断受診を希望する者には、産業医、衛生管理者が使用状況を確認し、健診を実施することになっている。

また、使用薬品によって法定の問診項目や検査項目が異なることから、健康診断当日までに各受診者に対応した内容の問診票を作成している。他の健診に比べて対象者が少ない等のため、問診票は事前に配布せず、健康診断受診の際に手渡し、それぞれに必要な情報の記入や検査項目を受診してもらっている。

なお、対象者の中には、特定業務従事者健康診断(検査項目は一般健康診断と同じ)の有害業務と重複して受診が必要な者もいる。受診時の混乱を避けるため、特定業務従事者健康診断と特殊健康診断は原則として別日程で計画しているが、対象人数が少ない場合は、両健診を同時に実施する場合もある。

3) 受診状況

平成28年度及び平成29年度の有機溶剤健康診断・特定化学物質健康診断の実施人数及び結果を表51～58に示した。表中の数字は、各検査における受診者数を示している。有所見者数は、診察での他覚所見を除く実施項目で要精査以上に該当する所見があった者の数である。受診対象者の業務内容は、いずれも試験研究である。

なお、これらの健康診断結果は、各事業場専任衛生管理者が取りまとめ、産業医が確認した上で、安全衛生対策室を経由して所轄の労働基準監督署に報告している。

表51 第1回有機溶剤健康診断実施結果(単位:人) 平成28年度

	従事 労働者	受診者	実施項目					有所見者
			他覚所見	腎機能	貧血	肝機能	尿代謝産物	
吉田	12	12	12	12	0	0	0	0
常盤	13	13	13	13	0	0	9	2
小串	10	10	10	10	0	0	7	0
附属病院	6	6	6	6	0	0	5	0

※実施項目のうち「尿代謝産物」は延べ数

表52 第2回有機溶剤健康診断実施結果(単位:人) 平成28年度

	従事 労働者	受診者	実施項目					有所見者
			他覚所見	腎機能	貧血	肝機能	尿代謝産物	
吉田	11	11	11	11	0	0	0	0
常盤	13	13	13	13	0	0	6	1
小串	9	9	9	9	0	1	8	0
附属病院	8	8	8	8	0	0	7	0

※実施項目のうち9「尿代謝産物」は延べ数

表 53 第 1 回有機溶剤健康診断実施結果 (単位: 人) 平成 29 年度

	従事 労働者	受診者	実施項目					有所見者
			他覚所見	腎機能	貧血	肝機能	尿代謝産物	
吉田	12	12	12	12	0	0	0	0
常盤	9	9	9	9	0	0	3	4
小串	11	11	11	11	0	0	8	0
附属病院	8	8	8	8	0	0	7	0

※実施項目のうち「尿代謝産物」は延べ数

表 54 第 2 回有機溶剤健康診断実施結果 (単位: 人) 平成 29 年度

	従事 労働者	受診者	実施項目					有所見者
			他覚所見	腎機能	貧血	肝機能	尿代謝産物	
吉田	11	11	11	11	0	0	2	0
常盤	9	9	9	9	0	0	3	0
小串	11	11	11	11	0	0	8	0
附属病院	7	7	7	7	0	0	6	0

※実施項目のうち「尿代謝産物」は延べ数

表 55 第 1 回特定化学物質健康診断実施結果 (単位: 人) 平成 28 年度

業務コード	002	104	106	201	202	211	213	221	230	243	245	249	252	255	有所見
薬品名	ベンジジン(過去)	オルトトリジン(過去)	ベリリウム	アクリルアミド	アクリロニトリル	クロム酸(過去を含む)	五酸化バナジウム	重クロム酸(過去を含む)	ベンゼン(過去を含む)	コバルト	クロロホルム	ジクロロメタン	1・1・2・2- テトラクロロエタン	メチルイソブチルケトン	
吉田			1	3							2	1			0
常盤					1		1				5	4	1	1	0
小串	1	1				2		2	1						0
附病						2		2	1						0

表 56 第 2 回特定化学物質健康診断実施結果 (単位: 人) 平成 28 年度

業務コード	002	104	106	201	202	211	213	221	230	243	245	249	252	255	有所見
薬品名	ベンジジン(過去)	オルトトリジン(過去)	ベリリウム	アクリルアミド	アクリロニトリル	クロム酸(過去を含む)	五酸化バナジウム	重クロム酸(過去を含む)	ベンゼン(過去を含む)	コバルト	クロロホルム	ジクロロメタン	1・1・2・2- テトラクロロエタン	メチルイソブチルケトン	
吉田			1												0
常盤					1		1			1	5	4	1		0
小串	1	1				2		2	1						0
附病						1		1	1						0

表 57 第 1 回特定化学物質健康診断実施結果（単位：人）平成 29 年度

業務コード	002	104	106	201	207	211	213	221	230	243	245	249	252	255	有所見
薬品名	ベンジジン(過去)	オルトトリジン(過去)	ベリリウム	アクリルアミド	塩素	クロム酸(過去を含む)	五酸化バナジウム	重クロム酸(過去を含む)	ベンゼン(過去を含む)	コバルト	クロロホルム	ジクロロメタン	テトラクロロエタン 1・1・2・2-1	メチルイソブチルケトン	
吉田			1	3	1						1				0
常盤											2	2	1		0
小串	1	1				2		2	1						0
附病															0

表 58 第 2 回特定化学物質健康診断実施結果（単位：人）平成 29 年度

業務コード	002	104	106	201	202	211	213	221	230	243	245	249	252	255	有所見
薬品名	ベンジジン(過去)	オルトトリジン(過去)	ベリリウム	アクリルアミド	アクリロニトリル	クロム酸(過去を含む)	五酸化バナジウム	重クロム酸(過去を含む)	ベンゼン(過去を含む)	コバルト	クロロホルム	ジクロロメタン	テトラクロロエタン 1・1・2・2-1	メチルイソブチルケトン	
吉田				2											0
常盤									1		2	3	1		0
小串	1	1				2		2	1						0
附病															0

5. VDT 健康診断

1) 概要

パソコンの普及に伴い VDT (Visual Display Terminals) 作業に従事する職員が増加しており、国からも、昭和 60 年 12 月 20 日付け基発第 705 号「VDT 作業のための労働衛生上の指針について」、平成 14 年 4 月には「VDT 作業における労働衛生管理のためのガイドライン (厚生労働省)」が示されている。

これらを参考に、山口大学では、平成 16 年の法人化以前から、「VDT 健康診断対象者調査票」の作成や VDT 健診実施など、職員が VDT 作業による健康障害リスクを適切に管理するための支援体制の構築と見直しを行ってきた。労働安全衛生法適用後は、行政による「指導・勧奨」レベルの健康診断である。

表 59 には、平成 28 年度・平成 29 年度の各地区での VDT 健康診断の実施日および実施場所を示す。

表 59 各地区の実施日および実施場所

		吉田	常盤	小串	光
平成 28 年度	実施日	11/22	11/18	11/16	12/12
	場 所	保健管理センター リフレッシュルーム	保健管理センター 工学部分室	保健管理センター 医学部分室	附属光中学校 保健室
平成 29 年度	実施日	10/20	10/18	10/31	10/23
	場 所	保健管理センター リフレッシュルーム	保健管理センター 工学部分室	保健管理センター 医学部分室	附属光中学校 保健室

2) 対象と方法

対象は、VDT 作業、つまり「ディスプレイ、キーボード等により構成された VDT 機器を使用して、データの入力・検索・照合等、文書・画像等の作成・編集・修正、プログラミング、監視等を行う作業」に従事する全職員である。従来は、これに該当すると思われる職員に、安全衛生対策室を通じて、事前調査として「VDT 健康診断対象者調査票」により、VDT 作業の種類と作業時間、自覚症状等についての作業従事状況調査を行った後、保健管理センター医師による健康診断の省略可否意見に基づき、検査実施対象者の絞込みを行っていた。しかし、平成 26 年度以降は検査を希望した職員全員を対象に実施している。

受診予定者には、安全衛生対策室を通じて、「眼精疲労の自覚症状についての質問表」と「健康診断票(VDT 作業従事者用)」を事前配付し、健康診断日程を通知している。検査項目は、①業務歴調査、②既往歴及び自覚症状の有無、③眼の検査(視力、眼位、調節機能)、④筋骨格系に関する検査(握力)であり、健康診断の実施自体は外部健診業者に委託しており、報告書は紙媒体で本学に送付され、本人に結果通知を行う。

3) 受診状況

平成 28 年度と平成 29 年度の各地区の受診者数と判定区分を表 60 に示した。なお、平成 29 年度は健診受託機関が変更となり、判定方法が異なるため、表を分割して集計した。

表 60 各地区の実施状況

		受診者数(人)	判定区分			
			管理A [※]	管理B [※]		管理C [※]
			10点 ^{※※}	9~8点 ^{※※}	7~5点 ^{※※}	4~1点 ^{※※}
平成 28 年度	吉田事業場	7	2	5		
	常盤事業場	3		3		
	小串事業場	7	1	6		
	光事業場	1		1		
		受診者数(人)	異常なし	経過観察		業務不適
平成 29 年度	吉田事業場	8	6	2		
	常盤事業場	6	5	1		
	小串事業場	18	15	3		
	附属学校事業場	4	4			

※労働基準監督署に提出する健康診断結果報告書における健康管理区分の記号(管理A、管理B、管理C)

※※10: 作業に常時従事可、9~8: 作業に常時従事可。眼疲労が強い場合には作業時間の短縮を考慮、

7~5: 総作業時間2時間以内。1連続作業時間30分以内、4~1: 作業時間をなるべく短縮、0: 作業は避けること

6. がん検診

1) 対象と概要

山口大学では、健康増進法第 19 条の 2 に基づく健康増進事業として位置づけられているがん検診(肺がん・胃がん・大腸がん・乳がん・子宮がん)を 40 歳以上の希望者に対して実施している(子宮がんについては 20 歳以上の女性職員)。がん検診に関しては、安全衛生対策室が実施主体であり、対策室が実施時期や方法などの計画立案を行い、外部業者に委託契約して検診を実施している。平成 28 年度に前立腺がん検診を新たに追加し、一部個人負担が導入された。平成 29 年度には、がん検診の申し込み手順及び受診方法が変更された。保健管理センターの関与としては、検診会場の提供及び事前準備(設営)、健診結果の管理である。各がん検診の対象者と検診項目を表 61 に、平成 28 年度及び平成 29 年度の各地区の実施時期及び実施場所を表 62 に示した。

表 61 がん検診の対象者および検査内容

検診項目	対象者	検査内容
肺がん検診	40歳以上	問診、胸部X線(間接)、喀痰検査
大腸がん検診	40歳以上	免疫便潜血反応検査(2日法)
胃がん検診	40歳以上	問診、胃部X線検査、※採血(萎縮性胃炎検診<ペプシノーゲン法>)
胃がんリスク検診	40歳以上	血液検査 ※定期健診時に同時実施(平成 29 年度から)
前立腺がん検診	40歳以上 男性職員	血液検査 ※定期健診時に同時実施(平成 29 年度から)
乳がん検診	40歳以上 女性職員	問診、視触診、乳房 X 線検査(マンモグラフィ) ※2年に1回(生まれ年で対象者を調整)
子宮がん検診	20歳以上 女性職員	問診、視診、内診、細胞診(子宮頸部) ※2年に1回(生まれ年で対象者を調整)

表 62 各地区の実施日および実施場所(平成 28 年度)

検診項目		吉田	常盤	小串	光
肺がん	実施日	7/26~8/5	8/31~9/1	9/7~16	8/23
	場所	保健管理センター横 検診車	工学部保健室横 検診車	医学部医心館前 検診車	光中学校保健室横 検診車
大腸がん	実施日	7/26~8/5	8/31~9/1	9/7~16	8/23
	場所	保健管理センター ※検体回収のみ	工学部保健室 ※検体回収のみ	医学部医心館 ※検体回収のみ	光中学校保健室 ※検体回収のみ
胃がん	実施日	11/22, 12/8	11/18	11/11, 16, 17, 21	12/12
	場所	保健管理センター横 検診車	工学部保健室横 検診車	医学部医心館前 検診車	室積公園駐車場 検診車
胃がんリスク	実施日	11/22	11/18	11/11, 17	12/12
	場所	保健管理センター ※採血のみ	工学部保健室 ※採血のみ	医学部医心館 ※採血のみ	附属光中学校保健室 ※採血のみ
前立腺がん	実施日	11/22	11/18	11/11, 17	12/12
	場所	保健管理センター ※採血のみ	工学部保健室 ※採血のみ	医学部医心館 ※採血のみ	附属光中学校保健室 ※採血のみ
乳がん	実施日	12/1, 15	12/2	11/28, 12/7, 8, 14, 16, 20~22	12/6
	場所	保健管理センター横 マンモグラフィ：検診車 視触診：リフレッシュルーム	産学連携棟横 マンモグラフィ：検診車 視触診：工学部保健室	医学部医心館前 マンモグラフィ：検診車 視触診：医学部医心館	室積公園駐車場 マンモグラフィ：検診車 視触診：中学校保健室
子宮がん	実施日	12/1, 15	12/2	11/28, 12/7, 8, 14, 16, 20~22	12/6
	場所	保健管理センター横 検診車	産学連携棟横 検診車	医学部医心館前 検診車	室積公園駐車場 検診車

表 63 各地区の実施日および実施場所（平成 29 年度）

検診項目		吉田	常盤	小串	光
肺がん	実施日	7/25～8/3	8/30～9/1	9/11～21	8/17
	場所	保健管理センター横 検診車	工学部保健室横 検診車	医学部医心館前 検診車	光中学校保健室横 検診車
大腸がん	実施日	7/25～8/3	8/30～9/1	9/11～21	8/17
	場所	保健管理センター ※検体回収のみ	工学部保健室 ※検体回収のみ	医学部医心館 ※検体回収のみ	光中学校保健室 ※検体回収のみ
胃がん	実施日	10/19, 20	10/18	10/17, 30, 31	10/23
	場所	保健管理センター横 検診車	工学部保健室横 検診車	医学部医心館前 検診車	室積公園駐車場 検診車
胃がんリスク	実施日	7/25～8/3	8/30～9/1	9/11～21	8/17
	場所	保健管理センター ※採血のみ(定期健診 時の血液検体代用)	工学部保健室 ※採血のみ(定期健診 時の血液検体代用)	医学部医心館 ※採血のみ(定期健診 時の血液検体代用)	附属光中学校保健室 ※採血のみ(定期健診 時の血液検体代用)
前立腺がん	実施日	7/25～8/3	8/30～9/1	9/11～21	8/17
	場所	保健管理センター ※採血のみ(定期健診 時の血液検体代用)	工学部保健室 ※採血のみ(定期健診 時の血液検体代用)	医学部医心館 ※採血のみ(定期健診 時の血液検体代用)	附属光中学校保健室 ※採血のみ(定期健診 時の血液検体代用)
乳がん	実施日	11/9, 14, 17	11/7	11/15, 21, 24, 27～29	11/1
	場所	保健管理センター横 マンモグラフィ：検診車 視触診：リフレッシュルーム	産学連携棟横 マンモグラフィ：検診車 視触診：工学部保健室	医学部医心館前 マンモグラフィ：検診車 視触診：医学部医心館	室積公園駐車場 マンモグラフィ：検診車 視触診：中学校保健室
子宮がん	実施日	11/9, 14, 17	11/7	11/15, 21, 24, 27～29	11/1
	場所	保健管理センター横 検診車	産学連携棟横 検診車	医学部医心館前 検診車	室積公園駐車場 検診車

2) 方法と手順

(1) 肺がん検診

40歳以上の全職員を対象に肺がん検診を実施している。実施時期と実施場所は表 62、63 に示す通りで、一般定期健康診断(基本健診)として実施される胸部 X 線検査(間接撮影)を肺がん検診としても代用している。具体的な手順としては、胸部 X 線検査は年間契約により委託した健診業者所有の検診車で実施しており、喀痰検査については、事前に安全衛生対策室を通じて受検希望の有無を調査し、希望者には肺がん検診受診票とともに事前配付を行っている。受検当日までに喀痰検査対象者名簿を準備し、検診当日に検体を回収し、対象者名簿とともに健診業者に受け渡している。検査結果については、健診終了後約 3 週間以内を目安に、健診業者から電子データで報告書を受け取っている。

(2) 大腸がん検診

40歳以上の検査を希望する職員を対象に実施している。実施時期と実施場所は表 62、63 に示す通りで、一般定期健康診断(基本健診)の時期に合わせて実施している。具体的な手順としては、事前に安全衛生対策室を通じて便潜血反応検査の希望の有無を調査し、希望者には基本健診問診票とともに検査容器を事前配付している。健康診断該当日までに 2 日分を採便し、健康診断受診時に受付で回収している。回収した検体は、年間契約した外部業者に回収日ごとに、検体受付名簿とともに手渡ししている。検査結果は、健診業者から電子データで報告書を受け取っている。

(3) 胃がん検診

対策型がん検診として、40歳以上の検査を希望する職員を対象に実施している。実施時期と実施場所は表 62、63 に示した通りである。具体的な手順としては、事前に安全衛生対策室を通じて希望調査を行い、胃部 X 線検査を実施している。胃部 X 線検査希望者には、事前に問診票を配付し、安全衛生対策室が受付

用に受検者名簿を作成している。胃部 X 線検査は年間契約により委託した健診業者所有の検診車で実施しており、各事業場の保健管理センターでは検査室を待合室として提供している。検査結果は、健診業者から電子データと紙媒体で報告書を受け取っている。

(4) 胃がんリスク検診

任意型がん検診として、40 歳以上の検査を希望する職員を対象に実施している。実施時期と実施場所は表 62、63 に示した通りである。具体的な手順としては、事前に安全衛生対策室を通じて希望調査を行い、血液検査(ペプシノーゲン検査及びヘリコバクターピロリ菌検査)を実施している。平成 28 年度までは、胃部 X 線検査と同時期に実施していたが、平成 29 年度より、受診者の利便性と経費削減の観点から、一般定期健康診断時の血液検体を代用する方法で実施している。なお、血液検査は年間契約により委託した検査機関が実施しており、検査結果は検査機関から電子データと紙媒体により報告を受け取っている。

(5) 前立腺がん検診

任意型がん検診として、40 歳以上の検査を希望する男性職員を対象に、平成 28 年度から新規追加され実施している。実施時期と実施場所は表 62、63 に示した通りである。具体的な手順としては、事前に安全衛生対策室を通じて希望調査を行い、血液検査(PSA 検査)を実施している。平成 28 年度までは、胃部 X 線検査及び胃がんリスク検診と同時期に実施していたが、平成 29 年度より、受診者の利便性と経費削減の観点から、一般定期健康診断時の血液検体を代用する方法で実施している。なお、血液検査は年間契約により委託した検査機関が実施しており、検査結果は検査機関から電子データにより報告を受け取っている。

(6) 乳がん検診

対策型がん検診として、40 歳以上の検査を希望する女性職員を対象に実施している(平成 17 年度以降、20 歳以上の女性職員を対象に実施していたが、平成 28 年度の一部個人負担導入に伴い、40 歳以上の女性職員対象となった)。実施時期と実施場所は表 62、63 に示した通りである。具体的な手順としては、事前に安全衛生対策室を通じて希望調査を行い、視触診及び乳房 X 線検査(マンモグラフィ 2 方向)を実施している。なお、マンモグラフィは平成 16 年度から追加項目として導入し、2 年に 1 回の受診を目安としている(生まれ年(西暦)で対象人数を調整している)。希望者には事前に問診票を配付し、安全衛生対策室が受付用に受検者名簿を作成している。マンモグラフィは年間契約により委託した健診業者所有の検診車で実施し、視触診についても健診業者が実施しており、各事業場の保健管理センターでは、診察室として検査室を提供している。検査結果は、健診業者から電子データと紙媒体により報告を受け取っている。なお、附属光小・中学校事業場については、平成 22 年度までは指定病院(光市立光総合病院)での個別受診という形式で実施していたが、平成 23 年度からは、他地区と同様に年間契約した健診業者所有の検診車で実施している。

(7) 子宮がん検診

対策型がん検診として、20 歳以上の検査を希望する女性職員を対象に実施している(平成 16 年度までは 40 歳以上対象)。実施時期と実施場所は表 62、63 に示した通りである。具体的な手順としては、事前に安全衛生対策室を通じて希望調査を行い、希望者には事前に問診票を配付し、安全衛生対策室が受付用に受検者名簿を作成している。年間契約により委託した健診業者所有の検診車で視診、内診、細胞診を実施している。乳がん検診と同様に、2 年に 1 回の受診を目安としている(生まれ年(西暦)で対象人数を調整している)。検査結果は、健診業者から電子データと紙媒体で報告を受け取っている。なお、附属光小・中学校事業場については、平成 22 年度までは指定病院(光市立光総合病院)での個別受診という形式で実施していたが、平成 23 年度からは、他地区と同様に年間契約した健診業者所有の検診車で実施している。

3) 受診状況
 (1) 肺がん検診

平成28年度と平成29年度の肺がん検診受診状況を表64～67に示した。

表64 肺がん検診結果(事業場別) 平成28年度

事業場	胸部間接撮影						指導区分				
	受検者数	判定区分					受検者	指導区分			
		B/b	C/c	D/d	E1/e1	E2/e2		異常なし	要観察	要精査	検査不能
吉田	415	394	10	1	10	65	44			21	
常盤	197	191	2	2	2	56	42			14	
小串・附属病院	721	693	16	6	6	111	81			30	
附属学校	73	69	1	1	2	18	15			3	
合計	1406	1347	29	29	20	250	182			68	

表65 肺がん検診結果(年齢、性別) 平成28年度

年齢	性別	胸部間接撮影						喀痰検査				
		受検者数	判定区分					受検者	指導区分			
			B/b	C/c	D/d	E1/e1	E2/e2		異常なし	要観察	要精査	検査不能
40～49	男	350	338	3	2	7	90	60			30	
	女	420	415	3	1	1	31	24			7	
	計	770	753	6	3	8	121	84			37	
50～59	男	239	225	8	3	3	63	49			14	
	女	234	220	8	2	4	34	25			9	
	計	473	445	16	5	7	97	74			23	
60～	男	103	92	6	1	4	27	21			6	
	女	60	57	1	1	1	5	3			2	
	計	163	149	7	2	5	32	24			8	
合計	男	692	655	17	6	14	180	130			50	
	女	714	692	12	4	6	70	52			18	
	計	1406	1347	29	10	20	250	182			68	

表66 肺がん検診結果(事業場別) 平成29年度

事業場	胸部間接撮影						喀痰検査				
	受検者数	判定区分					受検者	指導区分			
		B/b	C/c	D/d	E1/e1	E2/e2		異常なし	要観察	要精査	検査不能
吉田	431	406	13	2	10	64	54			10	
常盤	185	174	5	3	3	49	34			15	
小串・附属病院	729	703	16	1	9	117	93			24	
附属学校	69	66	2	0	1	16	7			9	
合計	1414	1349	36	6	23	246	188			58	

表67 肺がん検診結果(年齢、性別) 平成29年度

年齢	性別	胸部間接撮影						喀痰検査				
		受検者数	判定区分					受検者	指導区分			
			B/b	C/c	D/d	E1/e1	E2/e2		異常なし	要観察	要精査	検査不能
40～49	男	334	322	6	1	5	75	57			18	
	女	415	405	4	0	6	41	33			8	
	計	749	727	10	1	11	116	90			26	
50～59	男	263	246	8	3	6	66	52			14	
	女	253	242	7	2	2	26	21			5	
	計	516	488	15	5	8	92	73			19	
60～	男	93	85	6	0	2	30	20			10	
	女	56	49	5	0	2	3	1			2	
	計	149	134	11	0	4	33	21			12	
合計	男	690	653	20	4	13	174	132			42	
	女	724	696	16	2	10	72	56			16	
	計	1414	1349	36	6	23	246	188			58	

判定区分: B/b「異常所見を認めない」、C/c「異常所見を認めるが精査を必要としない」、
 D/d「異常所見を認めるが肺がん以外の疾患が考えられる」、E1/e1「肺がんをも否定できない」、E2/e2「肺がんの疑い」

(2) 大腸がん検診

平成28年度と平成29年度の大腸がん検診受診状況を表68～69に示した。

表68 大腸がん健診結果(事業場別)

事業場	平成28年度			平成29年度		
	受検者数	結果		受検者数	結果	
		陰性	陽性		陰性	陽性
吉田	119	112	7	101	96	5
常盤	100	95	5	94	89	5
小串・附属病院	293	278	15	302	298	4
附属学校	38	36	2	44	43	1
合計	550	521	29	541	526	15

表69 大腸がん健診結果(年齢、性別)

		平成28年度			平成29年度		
		受検者数	結果		受検者数	結果	
			陰性	陽性		陰性	陽性
40～49	男	131	126	5	123	120	3
	女	137	132	5	137	134	3
	計	268	258	10	260	254	6
50～59	男	99	94	5	102	96	6
	女	104	98	6	109	107	2
	計	203	192	11	211	203	8
60～	男	41	37	4	39	39	0
	女	30	27	3	23	22	1
	計	71	64	7	62	61	1
合計	男	271	257	14	264	255	9
	女	271	257	14	269	263	6
	計	542	514	28	533	518	15

(3) 胃がん検診

平成28年度と平成29年度の胃部X線検査結果を表70～73に示した。

表70 胃部X線検査結果(事業場別)

平成28年度

事業場	受検者数	異常なし	有所見者	所見内訳(延べ数)											事後措置				
				欠損影	ニツシエ	粘膜集中	粘膜異常	壁硬化	辺縁不整	変形	透亮像	胃底腺ポリリーブ	粘膜腫瘍疑	手術胃	要観察	要精査			
吉田	63	62	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
常盤	26	24	2	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	2
小串・附属病院	121	117	4	0	0	0	0	0	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	4
附属学校	18	16	2	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
合計	228	219	9	0	0	0	3	0	3	2	1	0	0	0	0	0	0	0	9

表71 胃部X線検査結果(年齢、性別)

平成28年度

年齢	性別	受検者数	異常なし	有所見者	所見内訳(延べ数)											事後措置			
					欠損影	ニツシエ	粘膜集中	粘膜異常	壁硬化	辺縁不整	変形	透亮像	胃底腺ポリリーブ	粘膜腫瘍疑	手術胃	要観察	要精査		
40～49	男	58	57	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	女	53	52	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
	計	111	109	2	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	2
50～59	男	45	40	5	0	0	0	2	0	2	1	0	0	0	0	0	0	0	5
	女	45	45	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	計	90	85	5	0	0	0	2	0	2	1	0	0	0	0	0	0	0	5
60～	男	15	13	2	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	2
	女	12	12	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	計	27	25	2	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	2
合計	男	118	110	8	0	0	0	3	0	3	2	0	0	0	0	0	0	0	8
	女	110	109	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
	計	228	219	9	0	0	0	3	0	3	2	1	0	0	0	0	0	0	9

表72 胃部X線検査結果(事業場別)

平成29年度

事業場	受検者数	異常なし	有所見者	所見内訳(延べ数)											事後措置			
				欠損影	ニツシエ	粘膜集中	粘膜異常	壁硬化	辺縁不整	変形	透亮像	※胃底腺ポリリーブ	粘膜腫瘍疑	その他	要観察	要精査		
吉田	68	54	14	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	13	9	5
常盤	37	29	8	1	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	5	3	5	
小串・附属病院	118	98	20	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	19	14	6	
附属学校	15	15	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	238	196	42	1	1	0	0	0	1	2	0	0	0	0	37	26	16	

表73 胃部X線検査結果(年齢、性別)

平成29年度

年齢	性別	受検者数	異常なし	有所見者	所見内訳(延べ数)											事後措置		
					欠損影	ニツシエ	粘膜集中	粘膜異常	壁硬化	辺縁不整	変形	透亮像	胃底腺ポリリーブ	粘膜腫瘍疑	その他	要観察	要精査	
～39	男	6	5	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0
	女	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	計	8	7	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0
40～49	男	52	45	7	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	5	4	3	
	女	60	52	8	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7	5	3	
	計	112	97	15	1	0	0	0	0	1	1	0	0	0	12	9	6	
50～59	男	50	40	10	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	9	7	3	
	女	40	31	9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	9	7	2	
	計	90	71	19	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	18	14	5	
60～	男	8	6	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	1	1	
	女	20	15	5	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	4	1	4	
	計	28	21	7	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	6	2	5	
合計	男	116	96	20	0	1	0	0	0	1	2	0	0	0	17	13	7	
	女	122	100	22	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	20	13	9	
	計	238	196	42	1	1	0	0	0	1	2	0	0	0	37	26	16	

(4) 胃がんリスク検診

平成28年度と平成29年度の胃がんリスク検診の結果を表74～77に示した。

表74 胃がんリスク健診結果(事業場別) 平成 28年度

事業場	受検者数	リスク判定結果			
		A	B	C	D
吉田	54	44	8	1	1
常盤	27	23	3	1	0
小串・附属病院	168	147	17	3	1
附属学校	14	14	0	0	0
合計	263	228	28	5	2

表75 胃がんリスク健診結果(年齢、性別) 平成 28年度

年齢	性別	受検者数	リスク判定結果			
			A	B	C	D
～39	男	10	8	1	0	1
	女	16	15	1	0	0
	計	26	23	2	0	1
40～49	男	59	51	7	1	0
	女	70	63	6	0	1
	計	129	114	13	1	1
50～59	男	34	30	3	1	0
	女	51	45	4	2	0
	計	85	75	7	3	0
60～	男	15	11	4	0	0
	女	8	5	2	1	0
	計	23	16	6	1	0
合計	男	118	100	15	2	1
	女	145	128	13	3	1
	計	263	228	28	5	2

表76 胃がんリスク健診結果(事業場別) 平成 29年度

事業場	受検者数	リスク判定結果			
		A	B	C	D
吉田	87	64	16	7	0
常盤	45	32	10	3	0
小串・附属病院	193	143	37	11	2
附属学校	19	14	5	0	0
合計	344	253	68	21	2

表77 胃がんリスク健診結果(年齢、性別) 平成 29年度

年齢	性別	受検者数	リスク判定結果			
			A	B	C	D
～39	男	20	11	8	1	0
	女	31	25	4	2	0
	計	51	36	12	3	0
40～49	男	75	59	12	4	0
	女	84	61	17	5	1
	計	159	120	29	9	1
50～59	男	47	34	9	4	0
	女	59	43	12	3	1
	計	106	77	21	7	1
60～	男	19	15	4	0	0
	女	9	5	2	2	0
	計	28	20	6	2	0
合計	男	161	119	33	9	0
	女	183	134	35	12	2
	計	344	253	68	21	2

(5) 前立腺がん検診

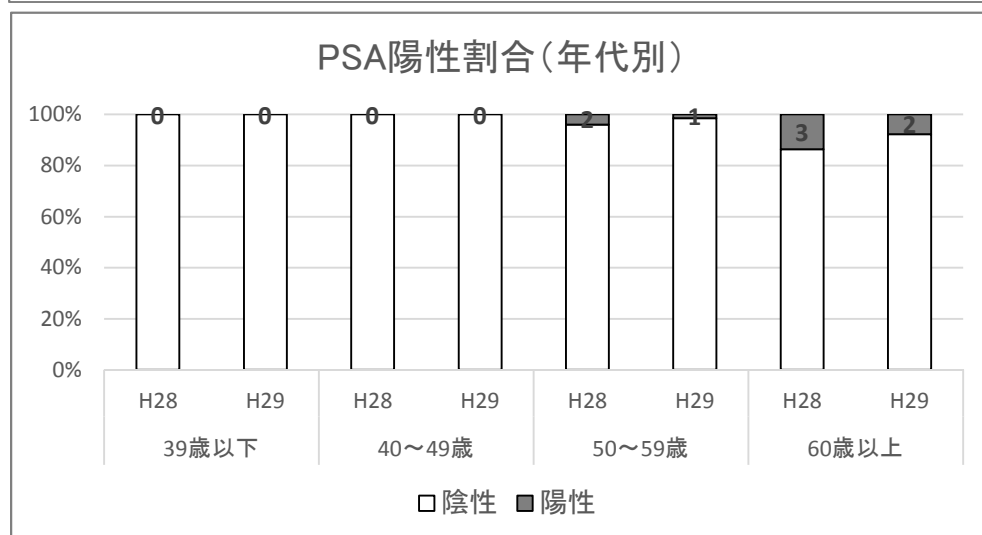
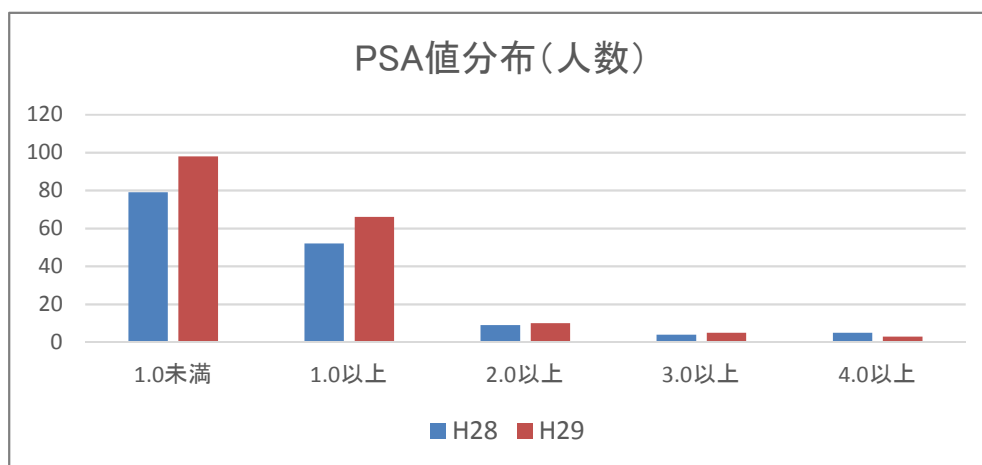
平成28年度と平成29年度の前立腺がん検診受診状況を表78～79に示した。

表78 前立腺がん健診結果(事業場別)

事業場	平成28年度			平成29年度		
	受検者数	結果		受検者数	結果	
		陰性(4.0以下)	陽性		陰性(4.0以下)	陽性
吉田	46	45	1	66	65	1
常盤	31	29	2	43	42	1
小串・附属病院	68	66	2	64	63	1
附属学校	8	8	0	9	9	0
合計	153	148	5	182	179	3

表79 前立腺がん健診結果(年齢、性別)

	平成28年度			平成29年度		
	受検者数	結果		受検者数	結果	
		陰性(4.0以下)	陽性		陰性(4.0以下)	陽性
～39	5	5	0	10	10	0
40～49	76	76	0	79	79	0
50～59	50	48	2	67	66	1
60～	22	19	3	26	24	2
合計	153	148	5	182	179	3



(6) 乳がん検診

平成28年度と平成29年度の乳がん検診受診状況を表80～83に示した。

表80 乳がん検診結果(事業場別)

平成 28年度

事業場	受検者数	視触診		マンモグラフィー				事後措置		
		異常なし	有所見者	異常なし	有所見者				要観察	要精査
					良性	良性 (悪性)	悪性 疑い	悪性		
吉田	50	49	1	40	1	9	0	0	0	10
常盤	30	28	2	27	1	2	0	0	0	2
小串・附属病院	302	295	7	263	14	25	0	0	0	30
附属学校	19	17	2	16	0	3	0	0	0	5
合 計	401	389	12	346	16	39	0	0	0	47

表81 乳がん検診結果(年齢別)

平成 28年度

年齢	受検者数	視触診		マンモグラフィー				事後措置		
		異常なし	有所見者	異常なし	有所見者				要観察	要精査
					良性	良性 (悪性)	悪性 疑い	悪性		
～29	32	31	1	30	2	0	0	0	0	1
30～39	111	104	7	98	4	9	0	0	0	13
40～49	147	145	2	124	8	15	0	0	0	16
50～59	88	87	1	72	2	14	0	0	0	15
60～	23	22	1	22	0	1	0	0	0	2
合 計	401	389	12	346	16	39	0	0	0	47

※事後措置は視触診とマンモグラフィー有所見者の総合判定

表82 乳がん検診結果(事業場別)

平成 29年度

事業場	受検者数	視触診		マンモグラフィー				事後措置		
		異常なし	有所見者	異常なし	有所見者				要観察	要精査
					良性	良性 (悪性)	悪性 疑い	悪性		
吉田	67	64	3	63	1	3	0	0	0	6
常盤	26	26	0	23	0	3	0	0	0	3
小串・附属病院	257*	251	5	220	12	24	0	0	0	27
附属学校	15	14	1	12	2	1	0	0	0	2
合 計	365	355	9	318	15	31	0	0	0	38

* マンモグラフィーのみ、視触診のみ 各1名あり

表83 乳がん検診結果(年齢別)

平成 29年度

年齢	受検者数	視触診		マンモグラフィー				事後措置		
		異常なし	有所見者	異常なし	有所見者				要観察	要精査
					良性	良性 (悪性)	悪性 疑い	悪性		
～29	27	26	1	23	3	1	0	0	0	2
30～39	93* ¹	90	3	85	4	3	0	0	0	6
40～49	145* ²	141	3	122	5	18	0	0	0	21
50～59	82	80	2	71	3	8	0	0	0	8
60～	18	18	0	17	0	1	0	0	0	1
合 計	365	355	9	318	15	31	0	0	0	38

※事後措置は視触診とマンモグラフィー有所見者の総合判定

*¹ マンモグラフィーのみ 1名あり、*² 視触診のみ 1名あり

(7) 子宮がん検診

平成28年度と平成29年度の子宮がん検診受診状況を表84～87に示した。

表84 子宮がん検診結果(事業場別)

平成28年度

事業場	受検者数	内診所見				細胞診判定(ベセスダシステムに基づく)						事後措置		
		卵巣腫瘍	子宮腫瘍	子宮頸管ポリープ	その他	NILM	ASC-US	ASC-H	LSIL	HSIL	SCC	異常なし	要観察	要精査
吉田	57	0	0	0	3	57	0	0	0	0	0	54	0	3(3)
常盤	24	0	0	0	0	24	0	0	0	0	0	24	0	0
小串・附属病院	399	0	0	0	10	393	1	0	3	2	0	383	0	16(10)
附属学校	23	0	0	0	0	23	0	0	0	0	0	23	0	0
合計	503	0	0	0	13	497	1	0	3	2	0	484	0	19(13)

表85 子宮がん検診結果(年齢別)

平成28年度

年齢	受検者数	内診所見				細胞診判定(ベセスダシステムに基づく)						事後措置		
		卵巣腫瘍	子宮腫瘍	子宮頸管ポリープ	その他	NILM	ASC-US	ASC-H	LSIL	HSIL	SCC	異常なし	要観察	要精査
～29	91	0	0	0	4	90	0	0	1	0	0	86	0	5(4)
30～39	152	0	0	0	5	149	0	0	2	1	0	144	0	8(5)
40～49	149	0	0	0	4	148	0	0	0	1	0	144	0	5(4)
50～59	87	0	0	0	0	86	1	0	0	0	0	86	0	1
60～	24	0	0	0	0	24	0	0	0	0	0	24	0	0
合計	503	0	0	0	13	497	1	0	3	2	0	484	0	19(13)

※事後措置の()内は内診所見などによる要精査数

※「要精査」の内診所見内訳はカンジダ膣炎12名、トリコモナス膣炎1名

表86 子宮がん検診結果(事業場別)

平成29年度

事業場	受検者数	内診所見				細胞診判定(ベセスダシステムに基づく)						事後措置		
		卵巣腫瘍	子宮腫瘍	子宮頸管ポリープ	その他	NILM	ASC-US	ASC-H	LSIL	HSIL	SCC	異常なし	要観察	要精査
吉田	78	0	0	0	1	78	0	0	0	0	0	77	0	1(1)
常盤	29	0	0	0	0	29	0	0	0	0	0	29	0	0
小串・附属病院	308	0	0	0	4	304	0	1	2	1	0	300	0	8(4)
附属学校	17	0	0	0	1	16	0	0	1	0	0	15	0	2(1)
合計	432	0	0	0	6	427	0	1	3	1	0	421	0	11(6)

表87 子宮がん検診結果(年齢別)

平成29年度

年齢	受検者数	内診所見				細胞診判定(ベセスダシステムに基づく)						事後措置		
		卵巣腫瘍	子宮腫瘍	子宮頸管ポリープ	その他	NILM	ASC-US	ASC-H	LSIL	HSIL	SCC	異常なし	要観察	要精査
～29	54	0	0	0	2	52	0	0	2	0	0	50	0	4(2)
30～39	121	0	0	0	0	119	0	1	1	0	0	119	0	2
40～49	150	0	0	0	3	149	0	0	0	1	0	146	0	4(3)
50～59	89	0	0	0	1	89	0	0	0	0	0	88	0	1(1)
60～	18	0	0	0	0	18	0	0	0	0	0	18	0	0
合計	432	0	0	0	6	427	0	1	3	1	0	421	0	11(6)

※事後措置の()内は内診所見などによる要精査数

※「要精査」の内診所見内訳はカンジダ膣炎6名